



Gifu University International Student Center - Gifu University International Student Center



岐阜大学夏期短期留学 サマースクール2015



GRIFFITH UNIV.



SEOUL NATIONAL UNIV. OF
SCIENCE & TECHNOLOGY



GIFU UNIV.

岐阜大学
GIFU UNIVERSITY

Summer School 2015 Report Contents

巻頭言

外国人から学んだこと：好きな方言で捉え，考え，発してみる

夏期短期留学（派遣）

開催一覧	3
実施協定大学の協定内容等	3
グリフィス大学	5
思い出の1ページ.....	30
ソウル科学技術大学	31
参加者アンケート	38
編集後記	48



日本から海外に留学している学生数を2020年には倍増の12万人に増やす目標が国の施策として立てられています。本学でも日本人学生の海外留学に対して支援体制を強化しつつあり、引き続き派遣数の増加に努めているところです。

今年度のサマースクールの派遣事業には、オーストラリアのグリフィス大学に25名（5週間コース）および韓国のソウル科学技術大学に2名（2週間コース）が参加いたしました。本冊子には今回のサマースクールに参加した学生の体験談を紹介しております。拝見しますと、海外研修を実施するにあたり、事前研修が留学の不安を取り除くのに大変有用であったことが述べられております。この事前研修は5週間にわたって週3回、計15回行われ、英語力向上かつオーストラリアの文化を知る機会を提供するものです。日本人同士英語で会話することに最初は抵抗も感じたが研修を通してそのような抵抗もなくなったと述べています。留学前にはいろいろな不安を抱えておりましたが、帰国時には達成感とか満足感を抱く参加者がほとんどで、滞在中充実した時間を過ごしたことが伺えます。多くの学生が、留学を通して新しい考え方、新しい自分を発見したと述べています。他の国からの参加者と比べて日本からの参加者のほとんどが英語のリスニング力とスピーキング力が弱いことを挙げており、滞在中にそれらの力が伸びていくのを感じ取って嬉しく思ったことなどが綴られております。コミュニケーションを取るにあたり、間違いを恐れず、周囲の人に積極的に話しかけ、自分の気持ちを何とか伝えようとする姿勢が大事であると感じとった学生も多いようです。

グリフィス大学への参加者は、ホームステイ先で

のホストファミリーとの生活が非常に有意義であったことも述べられております。ほとんどの学生がホストファミリーのもてなしに対して感謝の意を表しておりますとともにホストファミリーとの会話が英語の能力の向上につながったことも述べられております。また、平日の午後の講義のない時間帯や週末にはいろいろなアクティビティーに積極的に参加することによって異文化の理解、コミュニケーション能力の増進に努めていることも伺えます。今回の留学で得た経験を帰国後の生活や勉強に役立てていこうとする気持ちも伝わってきます。参加した学生のほとんどが、語学力をさらにつけて再び海外に出かけたいと考えています。留学中にいろいろな国の多くの友人ができたことを財産とする学生も多くいます。

このように5週間あるいは2週間という短期間ではありますが海外留学で得られる経験は非常に貴重なものであり、できるだけ多くの学生に海外留学の経験を積んでいただきたいと思う次第です。次年度以降もこの派遣事業は続きますので、多くの学生諸君に海外留学に是非チャレンジしていただきたいと思います。

本事業を実施するにあたり、多大なご尽力ご協力をいただいた国際企画課（留学生支援係）の職員、留学生センターの教職員ならびに事前研修でお世話になった学生諸君に感謝申し上げます。本冊子が、今後海外留学を目指す学生諸君に参考となる情報を提供することを祈念しております。

「外国人から学んだこと:好きな方言で捉え、考え、発してみる」

岐阜大学理事（国際・広報担当）副学長 岐阜大学グローバル推進本部長 鈴木 文昭



私は、外国人とのこれまでの多くの会話の中で、少なくとも2つのことを学びました。1つは、全身で受け止める姿勢です。日本語の社会で生活していると気付かないのですが、「会話は耳だけでしているわけではない」ということです。相手の身振りや指で示す先にも相手の思い（好意的ヒント）が含まれていることを、幾度も経験しました。以来、私は「推理とカン」を働かせ、全身で相手の表現を受け止めることにしています。

もう1つは、相手が発したことばに対して、「受け止めから返すまで」の自分自身の内部対応についてです。ニュース、スポーツ、天気や外国語会話等のメディア番組で使われている日本語ですが、特別な場合を除いては標準語です。ところが、私たちの日常生活で使っている日本語は、育った地域のことば（方言）の方が多いはずです。

海外に住み始めたころ、弾丸のようなスピード（その時の感じ）で発された相手のことばに対応することが全くできませんでした。自分自身の英語力の無さに随分と落ち込んだことが何度もありました。ある時、少しやけ気味になって、私の育った地方の方言で受け止めてしまったことがありました。英語と方言（日本語）の双方向間での変換を意味します。不思議なほどリズムが合って、スムーズにことばを捉え、英語で発することができたのです。もちろん、発するスピードよりはゆっくりでしたが。驚きでした。このことを意識するようになってから、会話が

スムーズに、そして楽しくなっていました。相手の人たちの表情も和らぎ、友人関係の始まりを予感したほどです。自分の好きな（得意な）方言で英語を捉えてみる。生活の中での会話は、その方が気楽になり、遊び心で英会話能力が身に付くのではないかと思います。

とはいえ、相手に外国語で伝えることは大変に難しいことは事実です。それを克服するためには、耳にした音とリズム、そしてその時の状況を思い出し、実際の場面で何度も使ってみることかと思っています。複数の外国人と一緒に遊ぶことも良いかと思えます。もちろん、短期留学が最も効果的な実践だと思えます。今年の夏にグリフィス大学（25名）やソウル科学技術大学校（2名）へ短期留学された皆さんは、きっと実感されたことと思います。もう一度出かけて、もっと自分を磨きたい。そんな思いで帰国された方も多いのではないのでしょうか。

これから海外に出かけてみたいと思っている皆さんも、この冊子の海外留学経験者からの貴重なメッセージを基に、ご自身の留学計画を立ててみてください。多くの皆さんが、自らの意志で海外に出向き、海外留学経験を積み、豊かな未来を創造されることを期待します。岐阜大学は皆さんの海外活動を応援しています。

夏期短期留学（派遣）

2015年度サマースクール（派遣）開催一覧

大 学 名	国 名	日 程	参加人数	宿 泊
グリフィス大学	オーストラリア	8月12日（水）～ 9月20日（日） 5週間	25人	ホームステイ
ソウル科学技術大学	韓 国	7月26日（日）～ 8月7日（金） 2週間	2人	大学寮

サマースクール実施協定大学の協定内容等

大学名（英文名）	初回協定締結日	協定内容	交換可能学生数	サマースクール 初回参加年
グリフィス大学 GRIFFITH UNIVESITY	1995年3月3日	学生交流（交換留学・ 授業料等免除） 研究者交流 情報交換等	4人	2002年8月
ソウル科学技術大学 SEOUL NATIONAL UNIVERSITY OF SCIENCE & TECHNOLOGY	1992年3月19日	学生交流（交換留学・ 授業料等免除） 研究者交流 情報交換等	3人	2008年8月

グリフィス大学

●オーストラリア グリフィス大学参加者名簿（合計25人）

日程：2015年8月12日（水）～9月20日（日） 5週間プログラム

	氏名	学部	学年
1	小川 達也	工学研究科（博士前期課程）社会基盤工学専攻	M2
2	牧野 広誉	工学部社会基盤工学科 環境コース	3
3	松浦 史晃	工学部社会基盤工学科 防災コース	3
4	南谷 隼人	工学部電気電子・情報工学科 情報コース	3
5	田中 颯	地域科学部 地域文化学科	2
6	林 知佳	工学部社会基盤工学科 環境コース	2
7	近藤 詩織	工学部社会基盤工学科 環境コース	2
8	山田 瑠莉子	工学部社会基盤工学科 環境コース	2
9	平野 貴大	工学部機械工学科 機械コース	2
10	伊佐地 範之	工学部機械工学科 知能機械コース	2
11	金山 治樹	工学部化学・生命工学科 物質化学コース	2
12	大野 友花里	工学部化学・生命工学科 物質化学コース	2
13	宮川 絢太郎	工学部化学・生命工学科 物質化学コース	2
14	櫻井 太一	工学部化学・生命工学科 物質化学コース	2
15	星原 啓人	工学部化学・生命工学科 生命化学コース	2
16	河野 泰樹	工学部化学・生命工学科 生命化学コース	2
17	松原 貴弘	工学部化学・生命工学科 生命化学コース	2
18	森 歩美	工学部化学・生命工学科 生命化学コース	2
19	森 大介	工学部化学・生命工学科 生命化学コース	2
20	菅原 涼太	工学部化学・生命工学科 生命化学コース	2
21	三浦 晃平	工学部電気電子・情報工学科 電気電子コース	2
22	高平 遥介	工学部電気電子・情報工学科 電気電子コース	2
23	小郷 元太郎	工学部電気電子・情報工学科 応用物理コース	2
24	櫻井 南奈	地域科学部	1
25	上野 紗弥	工学部化学・生命工学科 生命化学コース	1



事前研修について

6月16日から7月17日の5週間、週に3回16時30分から18時30分まで事前研修がありました。外国人留学生の方々と留学経験のある方がすべて英語で授業をしてくださいました。グループで、あるテーマについて考えたり、日本とオーストラリアの文化について比較したり、ゲームをしたりと、気楽に楽しく授業を受けることができました。

はじめは講師の方々が言っていることもよくわからなかったし、自分の考えを英語で伝えることも難しくて留学が不安になりました。しかし、この研修のおかげで英語を学ぶ意欲を高めることができました。私はこの研修で自己紹介や日本の紹介の練習ができるようになったことがよかったです。必ず現地で聞かれることなのに説明ができないことが出発前に分かったからです。特に自分が大学で何を勉強しているか、ということが意外に説明できないとわかりました。研修のおかげで事前に考えておくことができました。また、一緒に留学する人達と事前に仲良くなれたこともとてもよかったです。留学前に困ったことなどを相談することができたので心配事が減りました。

（大野 友花里）

私たちが今回参加したサマースクールでは、留学する2か月前から事前研修がありました。これは、6月16日から7月17日までの5週間に、週3回計15回行われる英語力向上且つオーストラリアの文化を知ることもできるという研修でした。研修の形式としては、交換留学等で岐阜大学に來ている留学生が講師となり主にオーストラリアに関連した話題に対してグループを作り、英語でディスカッションをするというものです。例えばオーストラリアに留学をしたら何をしたいか話し合ったり、またオーストラリアではいけないこと、逆にお酒が18歳以上から飲酒できるなど、オーストラリアでも良いことを学んだりすることができました。

事前研修で学んだことで一番大きかったことは、日本人同士で英語で話せたことです。普段生活をしているとそのようなことはもちろん無く、日本語で話すことが当たり前です。だから、日本人同士で英

語を話すことに最初は抵抗を感じ、恥ずかしさもありました。しかし事前研修を通して抵抗や恥ずかしさもなくなり、英語で話すことができました。その結果、留学先でも問題なく日本人と英語で話すことができました。私にとって事前研修はとても身になるものでした。

（金山 治樹）



事前研修の講師

後列左から パルムロース・ティムさん（スウェーデン、地域科学部、ルンド大学卒業）、ボン・カーシー・クリスティンさん（アメリカ、ノーザンケンタッキー大学）、ソヨン・ユンさん（オーストラリア、シドニー工科大学）前列左から ヘレン・ウーラックさん（オーストラリア、シドニー工科大学）、岩本理恵さん（教育学部 アメリカ、ノーザンケンタッキー大学に留学）



講師ミーティング

事前研修では、サマースクールまでの数週間、週3回程度、2時間の英語の研修を受けることができます。研修では、主にグループワークを基本として様々なテーマについて話しあったり、ゲームを交えて授業を進めたりと、全く英語ができない状態でも参加しやすい内容となっています。

事前研修は、サマースクール参加者の事前交流と、サマースクール開始前に日本で少しでも英語に触れ現地での学校生活やホームステイ生活を円滑に進めること等を目的としたもので、岐阜大学に留学に来ている外国人学生や留学経験のある日本人学生による英語の授業です。日本で生活しているため、普段から生の英語に触れる機会がなかなか持てない中で、自分自身の英語の質の向上や日常的に使われる英語に触れるまたとない機会を我々のために時間と場所を借りて提供してもらっているので、必ず参加すると良いと思います。

（森 大介）



事前研修の一コマ

行き帰りについて

私たちは中部国際空港から出発し、シンガポールのチャンギ空港を経由してオーストラリアへ移動しました。8月12日の朝10時半に出発し、オーストラリアのブリスベン空港に着いたのが翌13日の朝7時ごろでした。

私はスーツケースと、機内持ち込みの手荷物のつもりでボストンバックとリュックを持って行きました。他の学生たちはスーツケースとリュックだけだったので少し焦りました。しかし、預け入れの荷物は30kgを越えなければ2つまで預けることが可能で、ボストンバックとスーツケースの両方を預けることができました。

機内では、映画を見ることができたり、音楽が自由に聞けたり、機内食もしっかりありました。シンガポールからオーストラリアへ向かうのは夜中だったので飛行機の中はかなり寒かったです。私は上着をボストンバックに入れたまま預けてしまい半袖だったので、本当に寒くていきなり風邪を引くのではと心配になりました。そんな中、周りの外国人の乗客は半袖で機内食のアイスクリームを平気そうに

食べていたのがとても驚きでした。

また、シンガポールのチャンギ空港からは、周りには外国人ばかりになり、空港の手続きや飛行機でのアナウンスなどもすべて英語になりました。不安な気持ちも大きくなっていきましたが、やはり外国の雰囲気やこれからの5週間を思うとワクワクしてきました。

帰りは、入国審査などにも少し慣れ、また英語のやり取りや英語のアナウンスも聞き慣れていました。オーストラリアを離れる寂しさと日本に帰るといふ安心感などいろいろな気持ちでいっぱいだったのを覚えています。

（林 知佳）

まず準備についてですが、これは早めにごちゃごちゃしておいて損はないと思います。自分の場合はあらかじめ必要なものをリストに書き出しおき、それに基づいて準備をしたのですが、それでもいざ準備し始めるとポーチがあった方が収納しやすいのではないかと思ったり、着替えの服がかさばる

ので圧縮袋が必要になる等少しバタバタすることがありました。だから準備については前日より前に終わらせておいた方がいいと思います。

行き帰りの飛行機については、何事もトラブルがないのが一番だとは思いますが、大なり小なり何かしらトラブルは起こると思います。自分たちの場合も、行きの飛行機でオーストラリアのブリスベン空港に着いた際、入国時に通るゲートが壊れ、数名がはじめから列を並び直すという事態が起こり、全員揃う時間が大幅に遅れるというトラブルが起こりました。先に外に出た人からすれば、まさか途中でゲートが壊れて列を並び直しているという考えは頭になかったもので、先に入国して違う場所に行ってしまったのではないかと思います。空港内を探しました。

また、グリフィス大学からの迎いのバスの運転手さんが遅れている人を置いて先に出発しようとするのを引き留めるなど、到着当初から慌てることがありました。到着したばかりの頃は、ほとんどの学生が初めての留學生活だと思うので、色々な不安や心配を抱えていると思います。その中でこういったトラブルが起こると、自分たちの様に慌てることになると思います。ですから、行き帰りの飛行機では何かしらトラブルは付き物だという心構えがあった方が良いでしょう。

帰りに関しては、手荷物と預けるキャリーバッグの重量に特に注意を払った方がいいと思います。5週間も生活をすれば現地で買った服や雑貨、また日本に持ち帰るお土産で想像以上に重量が増えます。だから重量に関しては気を付けておくと帰りのチェックイン時に焦る必要もなくなると思います。

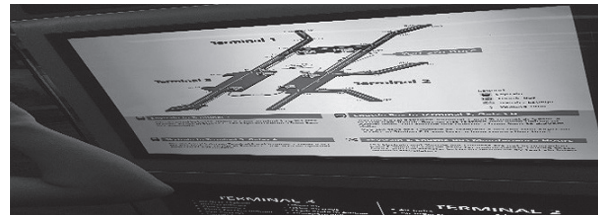
色々トラブルや注意点について書かせて頂きましたが、何はともあれ全てが良い思い出となっており、今回サマースクールに参加させて頂いたことは非常に良い経験となりました。

（牧野 広誉）

オーストラリアには飛行機で行くのだが、中部国際空港（セントレア）から直行便が出ないため、私たちはシンガポールのチャンギ空港を経由してブリスベン空港へ向かった。まず空港で問題が生じるとしたら荷物のことだろう。私の場合、ハサミを機内に持っていく手荷物の中に入れていたため捨てられてしまい、友達はコンパスを同じく捨てられていた。今回は捨てられただけだったの

で良かったのだが、罰金が発生していたら大変だった。またチャンギ空港では、行き帰り両方で長時間過ごすことになった。経由の空港なのでシンガポールに入国することもできず、チャンギ空港でどう過ごすかも大事だろう。私としてはシンガポール料理を勧めたい。シンガポール料理を日本で食べることは中々できないからだ。チャンギ空港はアジアでも最大級の大きさであり、一周するのに苦勞するため無料で出ている電車を使うと良いだろう。また様々な場所にマッサージ機が置いてあるため飛行機での疲れを取ることもお勧めしたい。

私たちが一番困ったのは行きでのブリスベン空港だ。メンバーが税関を抜けて続々とオーストラリアに入国したのだが、最後のメンバーがゲートの故障により中々入国してこないのだ。オーストラリアでの連絡手段をまだ持っていなかったため、合流するのにかなりの時間を要した。連絡手段を持たずに空港ではぐれると危険なので、複数人で動くことは必須だ。空港ではいくつかのトラブルがあったが、皆が慌てずに対応したため、大きな問題となることもなかった。冷静に対処することが大切だと感じた。



チャンギ空港の案内図

（金山 治樹）

中部国際空港を離陸するのが朝10時30分だったので、朝8時前後に空港に集合した。色々手続きを済ませると、1時間程度は待時間があった。



チャンギ空港からオーストラリアへ向かう飛行機の中から

教科書などの学校の資料はすべて貸出しで、書き込み厳禁でした。しかし Reading ではプリントが用意されていて、とても勉強がしやすかったです。机に座るだけの授業形体ではなく席を移動してクラス全員と話したり、前に出てホワイトボードに書いたりなど飽きない2時間でした。私たちの最後の授業の日にはクラス全員について1単語で表現しました。

GELIでの授業は英語の勉強にもなり、コミュニケーションの勉強にもなり、とても貴重な経験になりました。

（山田 瑠莉子）

■ 私たちは Griffith 大学の GELI という英語学校に通っていました。授業の進め方は先生によって色々ですが、文法や語彙を学び、それらが使われている文章を読んだり、会話をしたりしていく中で理解を深めていきました。時には、ペアの学生と一緒に、習った語彙を使うシチュエーションを考え、セリフを決めてクラスメイトの前でミニドラマを披露することもありました。クラスメイトの堂々と発表する姿、積極的に発言する姿に圧倒されました。最初はみんなの前で英語を使って発表することに緊張していましたが、だんだん慣れていきました。

2時間の授業の後、30分の休憩があり、また2時間の授業があるという流れでした。休み時間の間に大学の中にあるカフェでコーヒーを買ってきたり、他のクラスの友達と話したりとみんなそれぞれ時間を有効に使っていました。クラスメイトと仲良くなるにつれて、お菓子を持ってきて、食べながら色々な話をしました。私には私の英語の癖があり、友達には友達の英語の癖があって、お互いに一回では理



最後の授業時にクラスメイトと



Currumbin Wildlife に行った時の写真

解できなかったこともたくさんありましたが、友達と話をした休み時間が一番楽しかったです。

また、GELIには放課後や休日のアクティビティを提供してくれる大学職員、カイリーがいます。サーフィンのレッスンや、ホエールウォッチング、BBQ などさまざまなアクティビティがあります。個人で行くよりチケットを安く買うことができます。参加すると、色々なところに行ったりさまざまなものを見られるだけでなく、友達の輪を広げたり英語を使う機会を増やしたりすることができます。私はアクティビティを通して Currumbin Wildlife に行きました。そこで、オーストラリアの動物、コアラやカンガルーを見ました。コアラを抱いて撮った写真は良い記念になりました。

（上野 紗弥）

■ 私たちが5週間お世話になった Griffith 大学ですが、岐阜大学では信じられないほどキャンパスが綺麗なことに驚くかもしれません。大学の中の設備もとても充実していて、バー（お酒も売っている）、売店、理髪店、カフェ等日本の大学では滅多に目にしないような光景ばかりです。

大学の授業は、最初の一週間くらい経れば要領がつかめてくると思います。授業内容は自分達が既に知っているような文法、フレーズ等を英語のみの授業で再度振り返るという感覚で私は5週間過ごしていました。授業風景としてはクラスによってまちまちですが、中国出身の人が多い傾向だったと思います。留学ならではのヨーロッパのような雰囲気を期待しても、彼らは既に英語をマスターしているので、クラスには当然いません。大学内にはたくさんいるので、大学内でコミュニケーションを取る場を自分



トに挑みました。その結果、自分のクラスでは唯一僕が上のレベルに上がることができる成績をとる事ができました。特に、リスニングができたのはこの3週間でクラスのいろんな人と話をしたおかげだと思います。しかし残念なことに、5週間でそのクラスでタームを終えたわけではなく、途中参加であったため QIBT にはいけませんでした。その点でいうと研修がもう少し長期であると、日本人参加者の学習へのモチベーションもあがるのかなあと感じました。

（松浦 史晃）

GELI の授業は、平日の 8 時 15 分から 10 時 15 分、10 時 45 分から 12 時 45 分で行われます。事前に行われるクラス分けテストによってレベル分け（僕らの多くは、GE 3 か GE 4 というレベルに配属）され、各レベルによって授業内容も異なります。クラスは中国人と日本人の割合がかなり多く、特に GE 3 では約 8 割が日本人という状況でした。もちろんそのほかにも、韓国、ベトナム、UAE など様々な国からの留学生もいます。授業はもちろんすべて英語で行われ、Grammar, Vocabulary に加えて、ペアワークによる Speaking も学べます。また、僕の担任だった先生はプレゼンテーション能力を重視する方だったので、みんなの前に出て発表をするという機会も何度かありました。

これらすべての経験は、僕にとってかけがえのない経験です。日本とは一味違った授業であることは間違いなく、「使える英語」を学んでいるような、そんな感覚でした。例えば、過去形と現在完了形の使い分けに関する授業だったとします。日本だと、ひたすら練習問題を解いてパターンを暗記したりする授業が多いですが、一方 GELI では、実際に先生

との会話の中で使い分けの練習をしたり、ペアの人とその文法を用いた会話を作って発表をする、などといった授業を受けることができます。頭ではわかっていて問題は解くことができても、日常会話においてとっさにその文法を用いて正しく話せる、というわけではありません。僕自身そういった経験を何度もして、いかにこれまでの自分が「使える英語」を学んでこなかったかということを実感しました。そんな中での GELI の授業にはとてもいい刺激を受けたし、これからの英語学習にも生かしていくことができていると思っています。

特に、日本人はこれまで話す練習をしてきていないため、他の国の人に比べて speaking が弱い傾向にあります。しかし驚いたことに、香港の友達が言うには、彼らはこれまでほとんど話す練習しかしてきていないそうです。中国人は文法力こそ日本人に劣るものの、話す力においては長けています。そのため、speaking に強い中国人と grammar に強い日本人で、お互いに高めあうことができました。

このように GELI の授業は自分の英語学習を振り返るいい機会になり、日本にはない学びの環境を提供してくれました。積極的に参加をすれば、どんどん使える英語を身につけていくことができます。上手に活用して少しでも自分の将来に繋がれば、本当に中身の濃いサマースクールにできると思います。

（高平 遥介）

私達は、Griffith 大学の GELI というところに 5 週間通いました。GELI では様々な国から来た留学生と一緒に英語を学びました。私のクラスには中国、ベトナム、アラブ首長国連邦、ヨルダン、韓国、そして日本から来た学生達がいました。授業は 8 時 15 分から 10 時 15 分、10 時 45 分から 12 時 45 分の 2 コマでした。授業は 1 週間に 1 つのユニットを学習し、毎週金曜日にその週に学習したことの小テストがありました。ユニットごとにテーマがあり、私は旅行、ミステリー、買い物などを学びました。毎日文法を学ぶのですが、当然すべて英語で解説されます。私は文法用語の英語を知らなかったので、何回も調べなければなりません。日本で習ったことのある文法だったので分かりやすかったのですが、あらかじめ知っておくべきだったと感じました。

GELI の授業は、会話が多いところが日本と異な



最後の授業時にクラスメイトと

ると感じました。毎回解く問題は日本の問題と同じようなものでしたが、授業中に周りの人と話す機会が多かったです。私にとっては話し合いが難しかったです。自分の意見を伝えるのも難しかったのですが、クラスメイトが何を言っているのか聞き取れることも難しかったです。クラスメイトは私が分かるまで話し続けてくれました。お互いに何を言っているのか分からないこともありましたが、なんとか伝えることができました。伝えられたときは本当にうれしかったです。授業では、ゲームをすることもありました。授業中の話し合いとゲームのおかげで、クラスメイトと仲良くなれました。

（大野 友花里）

■ 僕たちは5週間グリフィス大学のGELIで英語の勉強をしていました。留学前に日本でライティングのテストを受け、オーストラリアについた次の日に軽いスピーキングのテストを受け、クラス分けされました。

クラスはレベル3とレベル4に分けられていて、大きい数字ほど高いレベル設定となっていました。テストの結果、僕はレベル3のクラスで勉強することになりました。クラスには何人かの岐大生と日本から来た他大学の学生、また中国やベトナムからの留学生がいました。彼らはみなおもしろい人ばかりで、彼らと英語でコミュニケーションをとることはとても良い経験になりました。

授業は朝の8時15分から10時15分までの授業を受け、30分休憩をした後また2時間の授業を受けるといった時間割でした。2時間は非常に長そうですが、授業はとても楽しいものばかりで、あっという間に感じるほどでした。

先生はみな優しくておもしろく、とても流暢でゆっくりとした英語で話してくれるので、英語があまり得意でなくても理解しやすいです。授業は主にライティング、リスニング、リーディング、スピーキングを中心として行われました。文法を習う授業は中学や高校で習ったようなことの復習なので、正直簡単すぎるということもありましたが、英語圏独特の英語の使い方なども学べて良い勉強になりました。授業では毎回英語でクラスメイトと話す時間が設けられ、徐々に英語を話すことにも慣れていきました。英語でスピーチをしたり、グループで協力してスライドを作って、プレゼンをしたりもしました。

授業は一週間に一つの単元を勉強しました。例えば今週は現在進行形をやって、来週は現在完了形をやるといった感じでした。そして金曜日にはその単元の小テストをして、理解の確認をしました。また5週間に一回大きなテストがあり、そこではライティング、リーディング、リスニング、スピーキングのテストが行われていました。そして、そこでよい成績が取れると一つ上のレベルに上がることができました。僕たちは5週間しかいなかったため、そのテストは受けましたが、クラスの変動は行われませんでした。非常に退屈な時間でした。

オーストラリアで授業を受けていて思ったことは、ほかの国のクラスメイトたちの授業への積極さでした。先生が何か質問や回答を求めるとすぐさま反応して、回答したり、分からないことがあるとすぐに質問をしたりという姿が多く見受けられました。それに比べて、僕ら日本人学生はそういったことは少なく、やはり日本人はシャイなのかなと感じました。また彼らは上手に英語が話せるわけではないのに、積極的に英語を使ってコミュニケーションを取ろうとしていてすごいなと感じました。僕はうまく英語で伝わらないなと思ったら、無理に表現しようとはせず、あいまいに終わらせてしまうことが多かったので、英語が上達するためには、たとえうまく話せなくても積極的に使っていこうとする姿勢が大事なのだと感じました。

今回グリフィス大学に通い本場の英語を聞いて勉強できたことは非常によかったですし、ほかの国の人柄や、今後の英語の学習への取り組み方など参考になる経験もいくつかあって、非常に思い出に残る学校生活になったと感じました。

（小郷 元太郎）

様々な国籍の学生とすべて英語で授業を受けるという体験は初めてで、新鮮で楽しかったです。私のクラスは自由な雰囲気、ペアワークなどクラスメイトとたくさん交流をしながら英語が勉強できました。図書館や自習スペースも便利で充実していました。

また、同じクラスでずっと一緒にいて親友と呼べるくらい仲良くなった中国人の学生がいて、お互い

の共通言語が英語しかなかったので、自然と英語で話す習慣がついたり、前期に第二外国語の授業で習った中国語がちょっと使えたので、今まで言語の授業を受けてきて本当に良かったなと思ったし、国も文化も全く違う人と当たり前のように話せたことがとても嬉しかったです。

（櫻井 南奈）

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ アクティビティについて ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

私は GELI が開催しているアクティビティには多く参加した。大学の授業が午前で終わるため、午後は基本的に自由時間となる。オーストラリアに来たばかりの頃はどこでどのように遊ぶかわからなかったため、大学のアクティビティになるべく参加したのだ。

数多くのアクティビティの中でも私がお勧めしたのは、カランビンサンクチュアリという動物園だ。お勧めする理由は私自身が動物好きということもあるが、ここではカンガルーやコアラに触れることができるからだ。オーストラリアに来たのなら会っておきたい動物たちだろう。

大学のアクティビティには載ってないのだが、ゴールドコーストにある 4 大テーマパークの割引もグリフィス大学ではできた。本来の値段の半額以下で行けるため、自分を含め活用している学生も多数いた。数週間経つとゴールドコーストのことも大まかにわかるようになるので、私たちは自分でスカイダイビングや土ボタルなどのアクティビティを予約して参加したりもした。アクティビティはもちろん、自分で予約の電話を英語で入れるなどいい経験がで

きた。

（金山 治樹）

グリフィス大学には数多くのアクティビティがあります。例を挙げるとサーフィンやホエールウォッチング、動物園に行くようなアクティビティです。学校で申し込むアクティビティの大きな利点としては、個人で行うよりもある程度安く済む点にあります。例えばサーフィンをグループで申し込むとなると 50 ドル近くかかっていますが、学校を通して申し込めば 35 ドル程度で楽しむことができるのです。ですので、何かしたいと思ったときは学校が今月何を企画しているのか、逐次確認することをお勧めします。

ゴールドコーストには綺麗なビーチがあり、このプログラムに参加する何人かはサーフィンをしたいと思うと思いますが、8月に行われるサーフィンレッスンはお勧めしません。8月はまだ気候的に暖かいとはいえ、むしろ寒いといえます。9月にもサーフィンレッスンは行われますのでそちらに参加することをお勧めします。もちろん天気の場合にも左右されるので、自分でよく考えてから申し込みをするのが重要だと思います。一つ注意しておきたいのですが、学校でアクティビティを申し込むのにお金を支払う必要があるのですが、早めに支払いを済ませないと希望するアクティビティに参加できないことがあるのです。最低でも実施日の2日前には支払う必要があると思います。

また学校ではテーマパークの入場チケットも購入することができます。現地で買うよりも何割か安く買うことができるので、まずは学校で買えるかどうか調べることをお勧めします。

最後に注意してほしいのですが、アクティビティを



動物園前の集合写真

申し込む際の支払いは基本的にクレジットカードで済ませる場合が多いので、最低でも1枚は持っている必要があります。

（田中 颯）

私は、たくさんのアクティビティに参加しました。カヤック、マウントタンバリン、BBQ、カランビン動物園に行きました。

カヤックでは、漕ぎ方、持ち方を丁寧に教えてくださる先生がいて、初めての体験でしたがとても楽しめました。漕ぐために普段使わない力を使い、次の日に筋肉痛になってしまいました。マウントタンバリンでは、大学から現地までバスが出たので、交通について困ることなく、気軽に参加できました。そこで見た景色は綺麗で記憶に残っています。

大学が主催するアクティビティで行くと少し安く行け、また多くの人に参加するので友達の輪が広まりました。引率の先生はとても優しく、一緒に楽しめました。

（近藤 詩織）

Griffith大学のGELIで5週間英語を勉強しました。GELIでは英語の授業以外にアクティビティがありました。アクティビティは観光名所に行くものやスポーツをするもの、オーストラリアの文化を体験できるものなど様々あり、申し込みをすれば自由に参加することができました。アクティビティのおかげで私のオーストラリアでの留学がより濃いものになったので、参加したアクティビティの一部と申し込み手順等を説明していきたいと思います。

まず、申し込み手順ですが、教室や廊下にアクティビティの予定が記載されたカレンダーが掲示してあります。

このカレンダーから自分の参加したいアクティビティを見つけます。参加したいアクティビティの開催日の概ね一週間前に、GELI4階の受付付近にあるブースに参加したい人が記入する用紙が置いてあるので、その用紙に必要事項を記入します。その後経費が必要なアクティビティの場合は、4階の受付にKyleというアクティビティの企画を担当している方がいらっしゃるのですが、彼女にアクティビティのお金を払いたい旨を言うと事務処理をしてくれます。これで参加することができます。アクティビティ

WEEK	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	SATURDAY	SUNDAY
1	7 August Welcome to GELI No fee	8 August	9 August	10 August Carrick Creek FREE	11 August Currumbin Wildlife Sanctuary Fee \$4.50 10:00-12:00 only	12 August Visit the Park & S. Wilson No fee	13 August BBQ at the Gold Coast No fee
2	14 August Q1 Skyport & Sailors Reception No fee	15 August	16 August English World Cinema No fee	17 August Lynne Food Festival No fee	18 August Aboriginal Cultural Experience No fee	19 August Ryans Bay Full Day Tour No fee	20 August Broadbeach Jazz Club No fee
3	21 August Surfing Lesson No fee	22 August	23 August English Music & Lynne Workshop FREE	24 August Whale Watch Cruise No fee	25 August BBQ at Broadbeach Parklands No fee	26 August Science & Surf No fee	27 August KAT 500 Circuit No fee
4	28 August Accident Food Tasting & Traditional South Dancing No fee	29 August Currumbin Wildlife Sanctuary No fee	30 August Football & Basketball Sports No fee	31 August Q1 Skyport & Sailors Reception No fee	1 September Public Holiday No fee	2 September Ask Dendrome Full Day Tour No fee	3 September Visit the Gold Coast No fee
5	8 September Beach School Doubles FREE	9 September	10 September Rugby No fee	11 September	12 September	13 September	14 September Beach School Gold Coast No fee

アクティビティのカレンダー

の一番の魅力は他の留学生と交流出来ること、通常の価格より安く様々な体験ができることであると思います。

次に、どれも貴重な体験でしたが、アクティビティの中で印象深かったものを紹介したいと思います。一つ目は Currumbin Wildlife Sanctuary です。日本でいう動物園です。キノボリカンガルーやレインボーロリキートなど、他ではなかなか見ることのできない動物がいたり、カンガルーに餌をあげたり、コアラを抱っこして写真を撮ることもできます。どれも初めての経験だったので、とても貴重な時間を過ごすことができました。また、Kyleと動物について会話をしたので、英語の学習にもなりました。帰りに綺麗なビーチだった Currumbin ビーチにも寄りました。アクティビティの内容がてんこ盛りで充実していました。

二つ目はスポーツのアクティビティです。そのアクティビティで他の国の人と一緒にバスケットボールをしました。スポーツを通して仲良くなることができ、いろいろ話せました。スポーツを一緒にすることで、普段よりも他の国の人々と交流しやすかったように思います。このような経験ができるのもアクティビティの魅力です。

アクティビティは、様々な体験ができると共に他の人とも交流ができる場です。いろいろなアクティビティに参加できたことに本当に感謝しています。是非、アクティ



カンガルー

ビティに参加してみてください。

（河野 泰樹）

■ やってみたい、行ってみたいと思ったものに参加しているような体験をしてきました。Mt. Tamborine Day Tourでは、亜熱帯雨林の中のスリル満点な橋を歩くSky Walkをしたり、Curtis Fallsというきれいな滝を見たり、たっぷり自然と触れ合いとても癒されました。Currumbin Wildlife Sanctuaryではカンガルーやワラビー、ロリキートに私の手から餌をあげたり、タスマニアン・デビルやツリー・カンガルー、ウォンバットを近くで見たり、コアラを抱っこでき、オーストラリア特有の動物たちと触れ合えてとても楽しかったです。

（櫻井 南奈）

■ 僕はグリフィス大学が主催する様々なアクティビティに参加しました。グリフィス大学が主催しているものなので、個人で行くよりも安く様々な体験ができました。僕が参加したものはカヤッキング、サーフィン体験、動物園、ホエールウォッチ、球技でした。アクティビティの参加者はほとんど日本人でしたが、ほかの大学から来た日本人や現地の外国人、またグリフィス大学のカイリー先生など多くの人と交流することができました。自分が参加したものは、ほとんどが今まで体験したことのないものだったので、とても新鮮で強く印象に残っています。

その中から動物園について紹介したいと思います。このアクティビティは平日にあり、授業が終わった後、午後から始まりました。行き帰りは学校が用意してくれたバスでとても快適でした。カランビン動物公園というところに行きました。そこはオーストラリアを代表する動物がたくさんいる有名な動物園でした。まず僕達はカンガルーを見ました。ここ

ではカンガルーに触ることができ、またエサをあげることも出来ました。大きい大人のカンガルーや小さい子供のカンガルー、また歯が出ているカンガルーや筋肉ムキムキなカンガルーなど近くで見、触れてみなければわからなかったことをたくさん知ることができました。ちなみにカンガルーの毛は意外に柔らかくて気持ちがよかったです。

またその動物園では、アボリジニのダンスのショーをやっていました。アボリジニとはオーストラリアの先住民族で、伝統的な笛や打楽器のようなものに合わせて、ダンスをしていました。それは現代のかっこいいダンスとは違い、とても奇妙なものでしたが、迫力があり、生命力を感じました。

その後はコアラを見に行きました。この動物園にはたくさんのコアラがいて、すべて低い木につかまり、ほとんど動いていませんでした。しかしその姿はとてもかわいかったです。それに加えて、この動物園ではコアラを抱っこすることが出来ました。コアラを抱っこすることは、日本ではなかなか出来ないことなのでとても楽しみでした。いざ抱っこしてみると、毛はふさふさでそのコアラは僕の服をぎゅっと掴んでくれて、とても癒されました。

他にも巨大なワニや日本にはいない鳥、タスマニアデビルという珍しい動物などを見ることが出来ました。しかもこの動物園のアクティビティには、砂浜でサンセットを見るというオプションも付いていました。オーストラリアの砂浜は日本に比べて細かい砂がなく、貝もほとんどないのでとてもきれいでした。

アクティビティでは、今までやったことのない経験や様々な人とのふれ合いがあったので、たくさん参加してよかったです。またアクティビティを主催してくれたグリフィス大学、引率してくれたカイリー先生に感謝したいです。

（平野 貴大）

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ ホームステイ先について ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

オーストラリアの生活（体験談）

（一日のスケジュール）

6：00～6：30 起床

8：15～10：15 一限目

10：15～10：45 休憩

10：45～12：45 二限目

12：45～17：00 自由時間

17：00～18：00 帰宅

18：00～19：00 お風呂（家によってルールが違う）

19：00 ご飯

21：00 就寝

僕のホストファミリーは、最初、マザー、娘さん、留学生の三人でした。三人とも女性であったことと文化、言語の違いにより、少し緊張と不安を抱えていましたが、みな親切だった上、岐大生と大学で会えることもあり、すぐオーストラリアの生活に慣れました。

初日マザーのお迎えにより家に訪れたところ、娘さんと留学生は仕事や学校に行っており、マザーと二人きりでした。留学生が帰ってくると、スーパーに行くから帰るまでドラマをみて待っていてと言われ、ドラマを見ていたものの、すべて英語のため理解できず、さらにマザーともコミュニケーションがうまく取れず、ホームシックになりました。しかし、ホームメイトの留学生がわかりやすい英語でバスの乗り方などオーストラリアの生活について細かく教えてくれたので、気持ちが楽になりました。その留学生は3週目くらいでシェアハウスに変えてしまったので、途中からはマザー、娘さんの二人と生活しました。

終バスの時間によって帰宅時間は変わりますが、慣れるまでは16時30分くらいには帰宅したほうがいいと思います。日が落ちるのが早いので、バスの中から目印を探しにくくなります。

自分がホームステイをして思ったこと、アドバイスは、以下のとおりです。

• Go card の購入

青色は adult 用で、参加学生はこのカードを購入しました。緑色は student 用です。日本でいうアユカの様なもの、オーストラリアの生活では必須です。近くのスーパー、コンビニで購入・チャージできます。チャージはトラムの駅でもできます。

• 自分の乗るバス停と降りるバス停の位置と目印を探すこと

日本と違って次に止まるバス停の名前が表示されないため、目印を探す必要があります。

• 自分の気持ちをしっかりと伝えること

一つ体験談を話すと、マザーに胡瓜が苦手と伝えた時に、「トマトは食べられるか？」と聞かれたので食べられると伝えたところ、それ以降毎日食事にトマトがでてきました。自分は、トマトは食べられるけど好きではなかったのですが、マザーに本心を伝えることができず毎日食べていました。このように海外の人たちは極端なので気を付けましょう。

ご飯の量も日本と比べて多いと思うので、マザーに量を調節してもらいたいと思います。自分は量

を大幅に減らしてもらいました。

• マザーに次の日の予定を伝えること

家族に心配をかけないように、毎日次の日の予定を伝えなければいけません。

• ケータイについて

家に Wi-Fi がある場合は、ケータイを買う必要はないと思います。その代わりとしてマザーに LINE をインストールしてもらう必要があります。学校、café、銀行では Wi-Fi が利用できるため、それを利用してマザーに帰る時間等を伝えることができます。遅くなる時は必ず LINE で連絡をしましょう。

Wi-Fi がない場合は、ポケット Wi-Fi、ケータイを買うことを勧めます。スーパーで買うのではなく、OPUTAS、VODAFONE で買うことを勧めます。パスポートを持参すれば初期設定をしてもらうことができます。

部屋にあるもの（例）

- コンセント1つ
- クローゼットとハンガー
- ダブルベット
- 机
- ゴミ箱
- 鏡
- ドライヤー（家による）

• 洗濯

週一が普通で、家によって異なります。水着などを使用した場合は、頼めば次の日に洗ってくれます。

洗濯機の性能上、服の洗いは基本的に日本より雑なので、お気に入りの服は控えたほうがよいと思います。白系の服も控えたほうがよいです。

• 気候

朝・夜は冬のように寒く、日中は夏のように暑いときもありました。気温の変化は想像よりも激しいです。日差しも強いので日焼け止めとサングラスが必要です。雨も意外と降るので折り畳み傘を持参しましょう。折りたたむジャンパーは持っているといいと思います。

（三浦 晃平）

僕のホストファミリーはとても親切で優しく、常に僕のことを気にかけてくれ、人見知

りの僕でも簡単に打ち解けることができました。多くのホストファミリーは留学生の受け入れに慣れているので、心配することはないと思います。しかし、ホームステイをする上で、留学生に守ってほしいルールが各家庭にいくつかあり、ホストファミリーに迷惑をかけずに円滑なホームステイ生活を送るためにも、必ず守ったほうが良いと思います。

一例として

- ・シャワーの時間は5分まで
- ・自室の中では飲食禁止
- ・部屋の中をきれいに保つ
- ・\$15／週でWi-Fiの利用可能

ホームステイ先のルールに関しては、行ってからでないと分からないし、その他にもベジタリアンであるかどうか、タバコを吸っているかどうか、他に留学生を受け入れているかどうかなど、事前に貰うホームステイ先の資料には載っていない場合もあるので、心配な人はホームステイ先の情報が分かり次第、事前にステイ先にメールを送って質問するとよいと思います。

（森 大介）

僕のホストファミリーは歳が40後半ぐらいの優しくて、とても面白いファーザーとマザーでした。彼らはイギリス出身で、オーストラリアの事はもちろん、イギリスの話もしてくれました。基本的に、毎晩一緒に御飯を食べて、今日学校で何をしたか、何をして遊んだかなど、色々と優しく話しかけてくれたので、今回のサマースクールが初めての海外滞在中で、緊張していた僕にとってとても助かりました。時がたつにつれて、会話にも多少慣れていき、自分から話題をふったりもして、ホストファミリーのおかげで積極的に英語を使うことが出来ました。

また、2・3軒隣の家にホストファミリーの娘さんが住んでおり、その娘さんには、幼稚園から小学校に通う子供が3人いました。週に3回ほど家に遊びに来てくれて、晩御飯を一緒に食べました。子供たちはとてもかわいかったです。週末には、ホストファミリーと娘さんが子供たちと僕、さらに、娘さんの家にホームステイをしている中国人留学生を連れて、ダック公園というカモに餌やりのできる場所にピクニックへ行きました。良い思い出です。



近所のダック公園



ホストファミリー

中国人留学生のリーはグリフィス大学の学生で、僕がオーストラリアに来る5週間前から滞在していることもあって、大学についてのイロハを教えてくださいました。僕のホストファミリーの食事はとてもおいしかったです。ただ、彼らは魚を食べるベジタリアンで、食事は常に野菜中心でした。そのおかげで、日本に帰った後、体重を量ると10kg近く痩せていました。オーストラリアでの生活で太っていた僕からしたら、うれしい誤算でした。健康的な食事を提供してくれて、とても感謝しています。

ベジタリアンという点を除いて、僕のホストファミリーの特徴だと思ったことは、日本の家族では考えられないようなことになってしまうDIY (Do It Yourself) の極みだという点です。ある休日に、ホストファミリーが庭で何かしているなど見てみると、彼らは今から花壇を作るのだと、セメントを溶かしてコンクリートの床を作っていました。他にも、工具を使って自分でドアに鍵を固定したり、今日は何をするのかと聞くと、チェーンソーで木を切ったりするなど、することそれぞれに驚きました。加えて、ホストファミリーのファーザーは、ギターなどの楽器も自作していて、たまに弾かせてもらいました。僕のホストファミリーがすごいというのはわかったのですが、オーストラリア人がみんなDIYに力を入れているのか、僕のホストファミリーが並

外れて力を入れているのか気になる場所でした。何はともあれ、こんな素敵なホストファミリーに恵まれて、とても充実したサマースクールだったと思いました。

（南谷 隼人）

■ 僕がオーストラリアでホームステイをした家庭はサウスポートという地区で、学校から比較的近い場所にあり、歩いて40分、バスを利用すると20分ほどのところにありました。当初、日本でその住所を確認するために地図を調べたとき、その航空写真から歩いてせいぜい15分以内に着けるようなところにあるのだと思っていましたが、実際歩いてみると、考えていたよりも大変時間がかかることにまず驚かされました。というのもオーストラリアは家の一軒一軒がとても大きく、1区画が日本と比べてとても大きいものとなっているためです。それでもまだ、学校にかなり近いところに家が位置していたため、徒歩で通えて交通費を浮かすことができたので、とてもよかったと思っています。

ホストファミリーは皆とてもフレンドリーでよく声をかけてくれましたし、僕のことを気にかけてくれ、大変親切な人たちでした。また、同じホームステイ先に東南アジアから来た留学生でオーストラリアに長く滞在している人もいて、その留学生とは、夕方と一緒にニュースを見ながらオーストラリアの事を教えてもらう等、多くのことを話したので、とても英語力を高められるような経験をすることができました。

また、3才になるホストファミリーの男の子とはさまざまな遊びをしたり、英語の本を僕に読んでくれたりして、普段聞くことのできない子供の英語も聞けてとてもいい体験になりました。

食事に関しては、毎晩出されるディナーはとてもおいしいものばかりで、僕は毎日夕食を楽しみにしていたほどです。僕の家庭ではほぼ毎日、ラムやチキン、ビーフなどの肉類が必ずと言っていいほど出てきて、やっぱり外国の食文化だなあと感じていました。

また、ホストマザーはアジア系の移民だったので、フォーやビーフンなども出され、また、タコスや手作りピザなど様々なメニューを堪能できて、とても満足のいくものでした。一方で、魚や貝といったシーフードはほとんど食卓に上らず、外食以外ではほと

んど口にすることができませんでした。オーストラリアの人に聞いてみると、家庭でエビ以外のシーフードが食卓に並ぶことはオーストラリアではあまりないとのことでした。だから、海のものがオーストラリアで食べたくになったら、外食するよりほかにありません。

日常生活に関しては、ホームステイ先の皆さんは多くの留学生を受け入れていて慣れていることもあり、いろいろなことに気を配ってくれたことと、あまり家の中のルールといったものがなく、シャワーや冷蔵庫なども自由に使うことができたため、これといった不満もなく自由に過ごせました。ただ、何週間か生活していて感じたのは、日本のように裸足で床を歩いたり床に座ったりできないので、少しそれにストレスを感じました。また、ホームステイした家は高校のすぐ隣に建っていて、午後三時ぐらいになると家の周りに多くの高校生があふれかえっていて、歩道に腰を下ろしてさまざまに時間を過ごしているのがとても印象的でした。また、ホストファミリーの高校生の男の子が友達と一緒に家のガレージ前で毎日バスケットボールをしていてその子達とあいさつを交わす等、とても気持ちの良い日々を過ごせました。

家に帰ってから暇な時間はほとんどテレビを見たりして過ごしていました。ニュースやドラマ、映画にクイズ番組など様々な番組をやっていたので退屈しないで済みましたし、またとても良いリスニングの勉強にもなりました。そして、リビングでテレビを見て過ごしていれば、ホストファミリーの皆や別の国から来ている留学生が気軽に声をかけてくれたので、良い会話のきっかけにもなり、部屋にこもっているよりとても意義のある時間を過ごすことができました。

このように、5週間という一見短いように感じる時間の中でも、ホストファミリーと日ごろの自分の家族との触れ合いよりも格段に濃い時間を過ごす中で、とても強いきずなが生まれました。

オーストラリアを発たなくてはならない日が近づくにつれ、とてもさみしいような感覚が生まれてきて、たった5週間の間でもオーストラリアを第二の故郷のように感じられるようになりました。

（松原 貴弘）

私のホームステイ先は、グリフィス大学から徒歩40分程度の住宅街にあり、他の数名の学生も近所でホームステイしていました。家から徒歩5分程度の場所にローカルスーパーがあり、お菓子や飲み物、お土産などを買い揃えるために利用していました。ホームステイ先はイギリス人のホストマザーと犬、同じタイミングでホームステイに来た中国人の合計4人で生活していました。基本的に門限などの規則がなく自由に過ごさせてもらいました。

食事は、朝昼晩と提供してくれて、時々一緒に料理を作り、楽しい時間を過ごすことができました。ホストマザーがそばを作ってくれたことがありますが、麺は汁につけて食べる“そば”でしたが、“焼きそば”になって提供されたため驚きを隠せませんでした。ですが、意外と美味しかったと思います。休日にはビーチやボタニックガーデン、野生のカンガルーとコアラのいる公園などに連れて行ってくれました。河にはサメがいるかもしれないから気をつけろと言われてました。

（小川 達也）

僕のホームステイ先の方は、病院でボランティアワークをしていて、そのためとても優しく、（実際には頼まなかったけれど）毎日送り迎えをしてくれて、食べ物などで欲しいものがあれば次の日に買ってきてくれるといったように、本当に我が子のように扱ってくれました。マザーはドイツでシェフをしていた経験もあったので料理も美味しかったです。

ステイ始めは部屋の窓が壊れていて締まらず、また夜になるとWi-Fiを切られていましたが、それをマザーにちゃんと言うことで全て改善できました。

海外では、「遠慮」を大切に思うより、はっきり物事を言い、嫌な時はNOとしっかりいうことが大切だと分かりました。実際そうしていたら、マザーから「お前ははっきり意見を言うしてくれるから心配する必要がなくて安心する。前の留学生はYesやOk…とばかりいい、苦手な食べ物を無理して食べて吐いたり、歩いて深夜帰ってきたりと毎日心配だった」と言われました。僕は迎えを頼み過ぎたりわがママを言い過ぎた気もしますが、その分マザーにどんどん気に入られ仲良くなっていきました。

ホームステイは一見楽しそうに思えます。僕のス



ホストマザー



ホストマザー、友人と共に

テイ先の家はすごく幸せでしたが、友達のステイ先は親がいつも家にいないため、夕飯はたまにしか作ってもらえず、昼食は毎日ない（3食の契約なのに）状態でした。またどこかへ行っても何の連絡も無く、会話もほぼないという状況でした。

僕はその友達を家に呼ぶことが多く、マザーに誘われよくご飯を3人で食べたりしました。

マザーは本当にいい人で、お金も貰っていないのに、友達に3食与え泊まらせるなど、僕と同じ生活をさせていました。お前たち2人は私の子供だからお金なんか気にしないでいいよ、お金より愛の方が大切といつもいっていました。事実マザーの出費は倍になったけれど僕たちはマザーとすごく仲良くなり、2018年にまたマザーの所に遊びに行こうと計画を立てているくらいです。この家にステイできてほんとうに楽しく幸せな時間を過ごせました。

（宮川 絢太郎）

私は、ホストファミリーにお世話になったお礼として日本の料理を作りました。大学からトラムで10分くらいのところに、アジアのスー

パーがあり、日本の食材も売っています。私は、お好み焼きといなりずしを作ったので、お好み焼き粉とソースといなりずしのあげを買いました。しかし、その値段は日本で売っているものの3倍近くしました。一般のスーパーには売っていないものだったので、私はそこで買いました。日本から持っていけないものは、日本で買っていく方が良いと思いました。日本の料理を作り、ホストファミリーはとても喜んでくれたので嬉しかったです。また、私は、スーツ

ケースと機内に持ち込むことのできるボストンバック、リュックに荷物を詰めました。洗濯が毎日できないと先輩から聞いていたので服を大量に持って行ったため荷物がかかり多かったです。機内に持ち込んだかばんは経由地のシンガポール チャンギ空港で持ち歩かなければならなかったもので、重くて面倒でした。帰りのお土産のことを考えると、荷物はできるだけ少なめにすると良いと思いました。

(近藤 詩織)

総

括

今回、サマースクールに参加できたことは自分の中で非常に大きな経験となりました。短期とはいえ、留学というものを経験したことのない自分にとっては全てが新鮮でした。1日中英語を使って生活する毎日、日本とは全く異なる環境、外国の人ならではの考え方や人間性など、日本には触れることのできない体験の数々がそこにはありました。

まず1日中英語を使う生活についてですが、これが留学の大きな目的だったので良い経験になったということは言うまでもありませんが、たとえ些細なことであっても英語で会話ができたという達成感や充実感、嬉しさは実際に海外で生活してみないと感じるができなかったことだと思いました。また同時に、深い話になるとあまり思ったことが伝えられず、日常会話の難しさや伝わらないもどかしさも感じた5週間でした。

また、バスや電車などの交通機関も日本とは大きく異なり、日本なら時刻表通りに到着し料金も常に定額であるところが、オーストラリアでは時刻表の3分前に出発してしまったり、週に10回以上乗るとその週は11回目以降が無料になったりしました。そういった点は海外で生活したからこそ味わうことのできた体験だったと思います。

しかし、一番海外にいることを感じたのは外国の人ならではの人間性をみる時でした。海外の人々は大様で陽気な方が多かったです。例えば、オーストラリアでたまたま入ったスケートボードショップで、松浦君がスケートボードを日本にいた頃からしていたこともあり、その店員さんと話しているうちに意気投合し、その後何度もその店を訪れるうちに仲良くなった店員さんを例にあげると、仕事の合

間の休憩時間にランチを一緒にとった際、休憩時間が過ぎたのに10分くらい大丈夫だよといって慌てることなくのんびりしているなど、毎日陽気で楽しそうでした。日本人は時間に正確できっちりしています。もちろんそれは良いことだと思いますが、その分少しカリカリしている方が日本には多いように感じました。オーストラリアで出会った人たちは、全てをゆるく考え深刻に捉えない分、毎日を楽しそうに過ごしているようでした。この人間性の違いを見ると、自分は一番海外にいるという実感を持ちました。そしてもう少し肩の力を抜いて楽に考えてみるのもいいのでは、と思うようになりました。

このように、英語への親近感が湧いただけでなく、自分の考え方や生き方にも刺激をもらうことのできた貴重な5週間となりました。サマースクールに参加でき、本当によかったです。ありがとうございました。

(牧野 広誉)

私はこの5週間のオーストラリア留学で言語のすごさ、重要さを強く感じました。5週間で中国、サウジアラビア、スイス、韓国、チリなど様々な国籍のたくさんの人々と出会いました。

グリフィス大学の語学学校に通う人はいろいろな国から集まっています。それぞれ母国語はみんな違いますが、英語が出来れば相手の言っていることを理解できるし伝えることもできるということを改めて実感しました。自分の英語力が足りなくて相手の言っていることが理解できなかったり、うまく伝えられなかった時は悲しかったり悔しさも感じましたが、だからこそもっと英語ができるようになりたいと思いました。そして違う国の人々と仲良くなって

話すことは、本当に嬉しくて楽しかったです。

また、ホームステイの思い出はとても大きく印象に残っています。5週間一緒に過ごしたホストファミリーは、本当に親切にしてくださり、たくさん話してくれ、笑わせてくれて、たくさんの英語のアドバイスをくれました。オーストラリアの家庭の生活を知ることができ、本当に貴重な時間を過ごすことができました。

この5週間で感じたことや経験したこと、そしてたくさん大切な思い出をずっと忘れずにいたいと思います。

（林 知佳）

私は英語が得意な方ではありませんし、今までは義務的に勉強してきたという感じが強かったです。この留学も学生のうちに一回は留学したほうがいいと言われたことがきっかけで参加しました。生活環境が一変することを恐れて、あまり海外に行きたいとは思っていませんでしたが、しかし、確実に英語に対する意識が変わったことを実感しています。勉強の一環だった英語がコミュニケーションの手段であり、外の世界について知る手段として使っていきたいと思えるようになりました。海外での生活、特に英語に囲まれた生活は大変新鮮で、この経験により自分に幅を持たせてくれたと思っています。

オーストラリアでの生活で特に印象に残っていることは、自分を含め現地で出会った日本人達はスピーキング力とリスニング力が非常に弱く文法には強いと気づいたこと、また5週間の留学はとても短く、最低3ヶ月くらいはいないと英語が話せるというレベルまでいかないというレベルまでいかなかったこととルームメイトに言われたことです。私自身、この留学を通して英語力が本当に上がったかどうかと問われると答えにくいですが、だから、今後は長期留学も視野に入れて英語を習得できるように励んでいきたいです。

（河野 泰樹）

留学をしてみたい、大学に入学した時からそう考えていて、このサマースクールに参加しました。それまで海外に行ったことのなかった僕は、ただ漠然と海外にあこがれを持っており、現地でどのような暮らしが待っているのか全く想像もつかない中で旅立ちました。

現地に着いて一番に感じたことは、やはり言葉の壁です。当然のことながら何から何まですべて英語で、相手の英語が理解できないとそっけない顔をされることもありました。

大学の案内の人の英語が速くて理解に苦しみ、初日から不安を感じたことも覚えています。ただ、これまでに培ってきた自分の英語力やコミュニケーション力を試す場としては良い環境でした。今の自分には使える英語が身につけているのか、言葉がうまく通じない人を相手にしっかりとやりとりができるのか、などを試し、その答えを肌で感じることができました。何より、日本語の通じない様々な人と出会い、会話をし、人間関係を作っていたことは自信につながりました。こういった経験はこれからの財産になっていくと信じています。

現地での生活で一番印象に残っていることは、ホストファミリーとの生活です。学校では多くのクラスメイトが日本人か中国人のため、ネイティブの人と会話をする機会は多くはありません。そのためファミリーとの生活は、英語で受け答えをする練習ができる大切な場でもありました。また、特に僕のホストファミリーはさまざまなおところに連れて行ってくれ、夕食後は会話をしたり、チェスをして遊んでくれました。そんな中で感じたことは、とにかく積極的に自分から話していく姿勢が大切だということです。英語が上手ではなくても、一生懸命話したり、なんとか聞き取ろうとしたりすればファミリーはそれに応えようとしてくれます。時には日本での生活と異なりかみ合わないこともありましたが、しっかりと気持ちを伝えれば問題はなく、そのすべてはいい経験になりました。ファミリーと過ごした時間は、特に多くのことを学ぶことができ、僕に



とってかけがえのない時間でした。

もちろん、オーストラリア観光も欠かせない要素です。午後からは自由時間のため様々な観光地へ足を運ぶことができました。どこへ行っても暖かい人柄のオージーがいて、人と人との壁が薄いように感じたことが印象的です。また、スカイダイビングやサーフィンなど、日本ではなかなかできないアクティビティに参加できたことも貴重な経験になりました。

こうしたオーストラリアでの生活を通して、漠然と抱いていた海外に対するあこがれは、確信となりました。海外でしか経験・失敗・成功できないことはたくさんあり、そのすべてがこれから生きていく上で貴重な財産になると思っています。サマースクールは本当に良い機会を提供してくれました。

そして、留学先でどんな生活が送れて、どれだけ満足のいく結果を得られるかどうかは本人次第であるということも実感しました。僕自身、もっとたくさんの挑戦をしていれば、さらに良い留学にできていたと反省する点もあります。今回得たすべての教訓を生かして、またどこかの国へ留学してみたい、そう思わせてくれるサマースクールでした。

（高平 遼介）

とても充実した5週間でした。初めは環境に慣れず気持ちが落ち込むこともありましたが、だんだん慣れてきているような行動を起こすことができてよかったです。私のホームステイ先には二人の姉妹がいて、たくさん遊んだことがとても記憶に残っています。すごく親切なファミリーで、キャンプに連れて行ってくれるなどたくさん楽しませてもらいました。何事もなくオーストラリアで生活できてとてもよかったです。

（山田 瑠莉子）

わたしのホストファミリーは26歳のマザーと5歳の男の子でした。わたしは、英語があまり話せないため、ホストファミリーと対面する前まで、これから5週間どうしようかと不安な気持ちがありました。しかし、マザーはわたしと歳が近く、話がとても合い、毎日笑ってばかりの日々でした。

また、5歳の男の子は人見知りな子供でしたが、バスケットボール、サッカー、テニス、鬼ごっこなどのスポーツ、また、室内では一緒に紙飛行機を作ったり、ミ

ニカーやブロックで遊んだりするうちに自分の弟と思うくらい仲良くなることができました。

ホストファミリーの家は3階建て、大きなお庭のあるお家でした。私の部屋は、ベッドとソファとデスク、また、大きな鏡付きの押入れがあり、落ち着いて過ごすことができました。ただ、雨の日にとってもおおきなナメクジが5、6匹現れるのが気持ち悪かったです。

マザーの作る料理はどれも本当においしかったです。朝、昼、晩、毎日ご飯を作ってくれました。マザーは、朝起きるのが苦手だったため、忙しい平日の朝はシリアルやパンとヨーグルトとフルーツで、休日の朝はパンケーキや野菜たっぷりのオムレツ、フレンチトーストなどにヨーグルトでした。

平日のお昼は学校があるため、毎日とても大きなサンドウィッチとたくさんのカットフルーツ、また、毎日種類が変わるスナック菓子を持たせてくれました。とても多く最初は食べきれない量でした。土日は、一日中家にいることがなかったため、マザーがランチを持っていくか毎回聞いてくれました。いると言えば、平日と同じメニューでした。

夜ご飯は毎日とても手が込んでいました。ファミリーがベジタリアンだったため、主に、パスタやピザ、リゾットのようなイタリア料理とケーキが多かったです。わたしも料理が好きなので、出来る限り5時30分から6時までには家に帰るようにして、ほぼ毎日一緒に夜ご飯を作っていました。楽しんで会話をしながらお手伝いが出来たので、英語力を上げることができ、好きなことができたという意味で、一石二鳥でした。

オーストラリアでは至る所にお寿司屋さんがありました。また、わたしも日本のお寿司屋さんでバイトをしていることもあり、その話をしたら、「わたしたちはお寿司が好きだから作ってほしい♥」と言われ、何度か巻き寿司を中心とした日本食を作りました。毎回大量の巻き寿司を作ったのですが、喜んで全て食べてくれたのでとても嬉しかったです。

土・日は、サマスクに参加した岐大の友達同士で遊んでいる人が多かつ





たのですが、わたしは半分以上の時間をファミリーと過ごしました。山にカンガルーを見に行ったり、パイロンベイに行ったり、土ボタルやプラネタリウムをはるかに超える星空、夜景を見に行ったり、マーケットに行ったり、ショッピングに行ったり、ショーに行ったり、ホワイトハウスというオーストラリアの最東端に行ったり、とても書ききれないほどたくさんの場所に連れていってもらいました。そのおかげで、いい思い出が出来ただけでなく、たくさんの人々に出会うことができ、とてもいい経験が出来ました。

ホストファミリーと5週間生活する中で、困ることは一つもありませんでした。マザーが話してくれた会話に分からない単語がしばしばありましたが、聞き返すとわたしが理解できるよう分かりやすく説明してくれました。学校の宿題の中で分からないことがあった時には教えてくれました。とても親切なマザーでした。本当の家族のような関係を築いたからこそ、お別れするのが寂しかったです。

帰国する前日には、パーティを開いてくれました。その時にサプライズでもらったプレゼントとお手紙は、わたしの一生の宝物です。

わたしも手紙を渡しました。その他に、折り紙でお菓子の箱を作り、5歳の男の子の好きなお菓子を詰めてプレゼントしました。少しだけでしたが、とても喜んでもらえてよかったです。

来年の春くらいに日本に遊びに来てくれると言っていたので、今から会えるのがとても楽しみです。それまでにわたしは英語力を向上させて、有名な場所やきれいな景色を一緒に観に行きたいです。

（森 歩美）

私は、ホストファミリーの都合で、ホストファミリーの変更がありました。その引越しのことをグリフィス大学の日本人の先生から聞かされました。オーストラリアに滞在して1週間もたないうちに引越すことになりました。やっとオーストラリアの生活にも慣れてきた頃だったのでショックでしたし、とても疲労感がありました。

しかし、次のホストファミリーは、とても優しく接してくれたので疲れも吹っ飛びました。また、ファザーが作ってくれる夜ご飯は、まるでレストランのような料理で美味しかったです。私はオーストラリアでたくさんの人と出会い、いろんな経験をしました。日本では、経験できないことが経験でき、とても充実した5週間でした。

オーストラリアの人だけでなく、中国人、韓国人など様々な国の人と会話をし、また、コアラを抱っこしたり、英語でミュージカルを見たりと、初めての経験をしました。オーストラリアで出会った人は私の大切な人たちですので、ずっと忘れないでいたいです。

（近藤 詩織）

オーストラリア留学はとてもよい経験となりました。この留学で私は以前より積極的になったと思います。留学が5週間と限られた時間だったことが要因の一つだと思います。留学は人生で何度もできるわけではないので、充実した生活を送りたいと考えていました。やりたいこと、できることは何でも挑戦しようと思いました。このこともあって、自分から行動を起こすことが多くなりました。また、オーストラリアではわからないことばかりだったので、自分で調べたり、人に聞いたりしなければなりません。オーストラリアで出会った人々はみんな親切でした。

私は人に尋ねるのが苦手なのですが、留学したおかげで人とよく話すようになりました。少し成長したかなと思います。そしてオーストラリア留学でたくさんの友達ができました。学校ではクラスメイト以外の留学生とも友達になりました。またホームステイ先の留学生とも良い友達になりました。特にホームステイ先の留学生とは毎日のように英語で話しました。理解できないことが多かったのですが、解説してもらったり、言い換えてもらったりして楽しく会話をしました。彼女と話すことが一番英語の勉

強になったと思います。また一緒に出掛けたり、ご飯を作ったりと、とても仲良くなりました。日本に帰った後でも連絡を取りあう友達もいて、とてもうれしいです。

私はなかなか留学する決心がつかなかったのですが、今は留学して本当に良かったと思っています。

（大野 友花里）

Summer School を通して様々な出会いがありました。一緒に参加した先輩方、オーストラリアで仲良くなったクラスメイト、お世話になったホームステイファミリー、先生方。Summer School に参加しなければ会うことがなかっただろう人々と大事な話からくだらない話までできたことが幸せです。また、色々な人と話していく中で、自分の中にはなかった考え方を知ることができました。クラスメイトの中には私と同じように学生もいましたが、一度社会に出てからオーストラリアの大学で学位を取ろうとしている人もいて、すごいなと思いました。

また、実際に英語を日常的に使わなければならない状況になったことで、自分の英語がどこまで通じるのかを知ることができました。自分の英語力のなさに落ち込んだ期間もありましたが、もっと英語を勉強しようというやる気につなげることができました。

つらいこともあったけれど、Summer School に参加して良かったです。

（上野 紗弥）

今回のサマースクールで、私はかつてないほど貴重な経験をすることができました。一つは当初の目的でもあった英語力の向上です。特にリスニング力はかなり身につきました。これは外国に行ったからこそついたものです。またスピーキングでは、考える力がつきました。伝えたいことについて、英単語を知らないから諦めるのではなく、違う言い方で伝える、考えるという力がこの5週間でつきました。二つ目に英語の必要性和視野の広がりを実感しました。海外に行く日本語は通じない。しかし英語なら違う国の人もコミュニケーションをとることができるということを実感し、それからより一層英語を勉強しようと思いました。また海外で、その国の文化を経験することで以前とは違った

方向からの考え方ができるようになりました。日本人ならこうするが、海外の人はどうするのだろうか、そのような考え方を持てるようになり視野の広がりを実感しました。

最後に交友関係です。ホストファミリーをはじめクラスメイトなど多くの親交がありました。サマースクールでできた関係は、非常に大切なものだと感じました。将来社会に出たとき、この5週間の経験は間違いなく活きるだろう、参加してよかった、と思えるサマースクールでした。

（金山 治樹）

僕は、今回岐阜大学主催のサマースクールに参加し、大きく変わることができたと思います。僕は過去にオーストラリアに行ったことがあり、またオーストラリアに行きたいと思っていたので、最初、サマースクールの企画でオーストラリアに行けると知ったとき、語学研修に参加したいという気持ちよりも、オーストラリアに再び行くことができるなんてラッキーだ、くらいにしか思っていませんでした。しかし、5週間という長い期間は初めてで、1人でホームステイするのも初めてなので、参加申し込みをした後からサマースクール出発までの数か月はとても緊張し、軽い気持ちで参加しようとするべきではなかったと、深く後悔しました。

しかし、実際にサマースクールに参加し、5週間オーストラリアで過ごしてみて、大きく変わることができたと思います。人見知りをしなくなり、周りのことをよく見、考えて行動する習慣がついたり、物事を考える際に、多方面から客観的に考える余裕が生まれました。一番大きな変化は、自分に自信を持つことができたことです。

サマースクールに行く前の僕は、自分に自信を持つことができず、特に、間違えることをとても恐れていた、何をするにしても人に頼りきっていました。しかし、サマースクールに参加し、グリフィス大学での英語の授業が始まると、間違えることは悪いことではないということがよくわかりました。教室には、中国人やベトナム人、韓国人などいろいろな国籍の学生がいましたが、日本以外の国籍の学生は積極的に授業に参加し、発音や文法が間違っているも率先して発言していました。みんな間違えることは気にしておらず、日本人だけがいつまでも恥ずかしがって発言しない状態が続き、僕も発言するのをた

めらっていました。しかし、ある日、それをみかねて言われた先生の「発言し、間違いに気付き、それを修正しなければ、英語の質を向上させることはできない」という言葉が僕の考えを変えてくれました。考えてみれば確かにその通りだし、たとえ間違っても誰も笑うことはないので、英語で話すことに積極的になることができました。

もし皆さんがサマースクールに興味があるけど迷っているのであれば、必ず行くことをお勧めします。海外へ5週間も言語学習をしに行ける機会はそうそうありません。おそらくこの機会が最後だし、この機会を逃したら確実に後悔すると思います。

（森 大介）

私は留学を通して新しい考え方、新しい自分を見つけられたと思います。最初の頃は言語や文化の違いにより不安もありましたが、近くに同じ岐大生がいるということとホストファミリーや現地の先生方の親切さにより不安は解消されました。

学校では中国人、韓国人など多くの国の友達ができ、買い物や大学が催す activity に参加して交流を深めることができました。英語をもっと上達させて世界の多くの人たちと接したいという目標もできました。

またホームステイでは英語のみの生活で不安もありましたが、常に英語に囲まれる生活が一番の speaking, listening の上達への近道だと感じました。ファミリーを含めオーストラリアの人たちはとても親切でいつも助けてもらいました。

自分の気持ちを言葉にする難しさを肌で感じられたことは今後の自分にとって大きな経験になったと思いますし、岐大以外の留学生の人と話してその人たちの価値観、考え方に触発され視野も広がったと思いました。ミスを恐れず挑戦する大切さも学びました。

留学をさせてくれた両親、現地で支えてくれたファミリー、先生方、友達に感謝したいと思います。

（三浦 晃平）

今回のサマースクールを通して、日本では決して味わう事のできない様々な貴重な体験をしました。その一つ一つが大切な思い出です。オーストラリアの家族と約5週間生活を共にし、平日に



最後の授業時にクラスメイトと撮った写真



25周年記念パーティ

はグリフィス大学で中国やタイからの学生と一緒に英語の授業を受けて交流し、授業後や週末には、サウスポートやサーファーズ・パラダイスに探索に行く、その全てが僕にとっては新鮮で、かけがえのない思い出です。

なかでも、大変だと思ったことは、英語を人々とのコミュニケーションの手段として使うということです。オーストラリアでの生活は何もかも英語です。ホストファミリーとの会話、グリフィス大学での授業、買い物、バスの時刻表。すべて英語です。初めはとても、英語の生活に慣れるのに苦労しました。ホストファミリーとの会話は、リスニングの問題を解きながらスピーキングをしなくてはいけないような状況で、とても神経を使いました。時には自分の言いたいことが伝えられず、つらいときもありましたが、伝えられた時の喜びのほうが大きく、前向きな姿勢を維持することが出来ました。

大学での授業でも同様に、外国人の学生と英語でコミュニケーションをとる必要がありました。ホストファミリーの場合、第一言語が英語なので、話すスピードは速く、単語も難しいものが出てきましたが、外国人学生の場合、彼らの第一言語は僕らと同じで英語ではないので、お互いに同じレベルの語彙、

スピードなのでリラックスしてコミュニケーションを取ることが出来ました。サマースクールに参加する以前は、英語はテストで点を取るモノだと思い、TOEICに出るような経済系の単語を覚えていましたが、オーストラリアでの滞在中は、日常生活で使うような簡単な単語も知らず、自分の英語に対するあり方を考えさせられました。また、その英語のあり方に対する変化は、今後、自分の英語の勉強のスタイルに良い意味で影響すると思いました。

（南谷 隼人）

今回オーストラリアに留学して思ったことは、やっぱり日本とは全然違うということでした。また僕は今回初めて海外に行ったということもあり、日本とのギャップを多くの面で感じる事ができました。例えば物価の違いだったり、たばこやお酒に関する法律の違いだったり、日本には普通に売っていてもオーストラリアでは珍しいものだったりなどいろいろと違っていて、びっくりする事が多かったです。また向こうの料理やお菓子は味が濃いものが多くおいしいものはたくさんありましたが、カロリーもかなり高いのだろうなと思っていました。

しかし一番違うのは、オーストラリア人と日本人との人柄だと感じました。向こうの人はすごくおおらかで、多くのことに積極的であると感じました。僕のホストファミリーはマザーだけでしたが、話すことが大好きでいつも食事中に楽しく話してくれるので、全然さみしくはなかったです。マザーは僕に日本語を聞いて覚えようとしたり、日本食を作ろうとしたり、マザーもまたチャレンジしている姿があり、自分も頑張ろうと思いました。

オーストラリアの人はみな優しく、また自分の気持ちを常に正直に表現していました。すぐに人を褒め、恥ずかしがらずに感謝のことばを口にできることは日本人の僕らにはないものですし、自分もそうなりたいと感じました。

今回の留学では多くの出会いや日本ではできない経験をすることができ、とても良い留学生活だったと思いました。

（小郷 元太郎）

今まで日本で英語の勉強をしていて、特に英語が楽しいなんてことは全く思ったりしな

かったのですが、オーストラリアで全く日本語の通じない人たちに英語を使って会話をするという経験をしてみると、頭を使って表現を考え、また集中してその人の言っていることを考え、通じなければ身振り手振りも交えてまた別の表現を考え、そしてやっと通じる。そのような作業が、僕には一種のパズルのように感じられ、とても面白く感じました。今までは日本語が通じる相手と英語で会話をするという授業だったので、日本語というズルができたからこそ、ゲームがズルをしてクリアしても面白くないように、英語を話すのも面白くなかったのだなあと感じました。今回のサマースクールで、本当の英語の面白さというものを肌で感じる事ができ、今後英語を学ぶためのモチベーションにすることができたのでとてもよかったです。

（松原 貴弘）

私はこのサマースクールに行き、英語が身近に感じるようになりました。はじめは、オーストラリア特有のなまりで何を言っているのかよくわかりませんでした。ホストファミリーに意味の確認を取り続けて、日が経つにつれて英語に耳が慣れてきました。日常ホストファミリーがよく使う英語もわかりました。その英語を使って毎日コミュニケーションをとり、気軽に英語で話せるようになりました。オーストラリアを離れるころには英語の慣れを感じるようになったので、もう少し残っていたと感じました。

（伊佐地 範之）

僕たちはグリフィス大学にある英語学校で5週間英語を学びました。グリフィス大学は公立大学なのにとっても大きく、行ったばかりの時はよく迷子になったほどです。大学内には学生のための施設がいろいろあったのですが、その中にバーがあり、学生が昼からビールやワインを飲んでいる姿はとても衝撃でした。

僕はGE3というクラスで、3回ほど学生が増えたり減ったりしたのですが、いずれも9割近くが日本人で、正直あまり留学らしくないクラスでした。

オーストラリアでの授業では主にグループワークやコミュニケーションを重視しており、授業だけでなく学生同士が楽しく話している姿は日本では見たことがなかったので、とても新鮮な感じがしました。

また、先生はただホワイトボードに書くだけではなく、あらゆる質問を私たちに投げかけ、私たちに考える時間をくれました。

英語は reading や writing は日本でも得意で、グリフィス大学での授業でもそこは理解できたのですが、listening と speaking が自分の思っていたよりもひどく、先生や他の国の学生の話聞き取れなかったりしたので、もっとゆっくり話してもらったり、相手に意見を伝えることができなかつたことがあり、来る前に英語の聞き取りや発音をもっと練習するべきだったと後悔しました。

グループワークでは、僕のクラスは火星ホテルのパンフレット作りとパワーポイントで発表をしました。もちろんグループ内の会話は英語なのでなかなか効率よく進まず、とても苦戦しましたが、speaking と listening のよい練習になり、少しではありましたが向上させることができたと思いましたが、何より他の国の方々と英語で話す勇気と自信がつかしました。

グリフィス大学はただ授業を受けるだけでなく、他国の人々や文化と触れ合うことのできる場所だったので、とても満足しています。もし再びチャンスがあれば、またグリフィス大学に行き、今回知り合った友達や先生と再会したいと思っています。

(櫻井 太一)

オーストラリアで過ごした5週間は、私にとってとても幸せな時間でした。英語を学び、海外の生活や文化を体験することができたことはもちろん、サマースクールに参加しなければ出会うことのなかった、かけがえのない人達に出会うことができました。友達はみんなそれぞれ国籍も文化も違いましたが、とても気が合って毎日一緒にいて笑っていたし、かなり打ち解けていたので、私は間違ってもいいやという気持ちでリラックスして英語を使っていました。たとえ文法が少し違っていてもお互いに言いたいことは通じていたので、遠慮や心配をしなくて伝えようとする大切さをすごく感じました。私は、私たちをつないでくれた“英語”が前よりも好きになり、もっと上手に英語でコミュニケーションがとれるようになりたいと思いました。

サマースクールをきっかけに、海外に一步踏み出す勇気もらい、少しだけ自分に自信がついて、もっ

と他の国にも行ってみたい、いろんなことを経験してみたい、と思うようになりました。私はサマースクールに参加できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

(櫻井 南奈)

私は今回のサマースクールにおいて、英語の学習、オーストラリアでの生活、異文化体験、観光地巡りなど多くのことを経験できたと思います。期間は5週間あり、長いようであつという間の5週間でした。日本語を使わない英語の授業は新鮮で、特にリスニングとリーディング能力が養われたと思います。日本と比べると物価が高いため、食費が嵩みましたが、美味しい食べ物を沢山食べられたことに満足しています。

土地が広いのか日本とは街並みが似ても似つかず、信号や道路の仕組みも日本と少し違っており、交通や景観の勉強になりました。また、オーストラリアの友達と久しぶりに再会でき、楽しい時間を過ごせたことは良い思い出です。加えて、兼ねてより観光したかったシドニーに行き、念願のオペラハウスでミュージカルを観られたことは幸せでした。最後に、このプログラムを通して学んだこと、経験したことなどを今後の生活に活かしたいと思っています。

(小川 達也)

僕はこのサマースクールに、これまで勉強の中で特に苦手だった英語が少しでも好きになればいいなと思い参加しました。また英語力を向上させ、将来実用的に英語が使えるようにしたいという目的もありました。5週間オーストラリアに滞在して、英語の勉強としては少し短いなと感じました。しかし、たくさんの英語を聞いたのでスピーキング能力は上がったと思います。また現地の外国人と片言であっても英語で話すことができ、今まで味わったことのない英語の楽しさを感じることが出来ました。

様々な人との出会いもこのサマースクールでの大きな思い出です。ホストファミリーはもちろんのこと、グリフィス大学の先生やクラスメイトたち、グリフィス大学に通っている日本人、街で会う現地の人など、出会う人、話す人すべてが新鮮でした。特にクラスメイトの中国人やサウジアラビア人、スイス人、香港人など様々な国籍の人と自分の国の文化

やスポーツ、遊びについてそれぞれが知らなかったことをたくさん英語で話すことが、とても楽しかったです。

またこのサマースクールで改めて人に感謝し、伝えることの大切さを学ぶことが出来ました。このサマースクールでは、いつも以上にいろいろな人の支えがあって生活することができました。そんなときに感謝を伝え、コミュニケーションを取ることが大切だと思いました。例えばマザーが料理を作ってくれた時や洗濯してくれたとき、また褒めてくれた時など、こちらが笑顔で「thank you」と言うとマザーも笑顔で「you're welcome」と返してくれました。何気ないことですが英語があまり喋れない僕にとっては、人と人が強い繋がりを持つための大切な言葉だと感じました。これはオーストラリアに行かなければ気づけなかったことだと思います。

そして自分のサマースクールの生活を支えてくれたホストファミリーやグリフィス大学の先生、手続きをしてくださった岐阜大学の先生、この留学を充実したものにしてくれたクラスメイトや岐阜大学から一緒に行った仲間、先輩、オーストラリアで出会い仲良くなった日本人、現地で出会った人、この留学に関わったすべての人、そして留学を許可してくれた親に感謝したいです。Thank you!

忘れられない夏休みになりました。

（平野 貴大）

この5週間のオーストラリアでの研修は、自分の中でいろいろ考えるきっかけになりました。

自分は過去にも何回か海外に行ったことはありましたが、ひとりで5週間ホームステイをするという経験は初めてでした。

まず感じたのは、オーストラリアの物価の高さです。これは文化の違いにも通じるものがあると思います。飲み物がすごく高いです。日本にいとコンビニや自販機で気軽に飲み物を買って生活していましたが、オーストラリアに着いてからは、家から水を持参するというのを多くの人が行っていましたし、自分もしました。またお菓子を気軽に買うということも、オーストラリアでは減りました。なにせ高いからです。

他にも日本の生活とは全く違う5週間の生活でした。自分がホームステイした場所は他の研修生と比

べてもはるかに遠く、田舎でした。バスを乗り継いで学校に行かなければいけないし、そのバスも1時間に1本しかなく、近くにコンビニなどのお店はないし、夜は街灯がほとんどなく、日が暮れば外は真っ暗でした。しかしそのおかげで時間の感覚が敏感になり、毎日予定をしっかりと組んで行動することができました。日本では休みの日は夜中までお金を使って遊んだりしていましたが、オーストラリアでは18時にはほとんど家にいて、その日の宿題や英語の勉強、ホストファミリーと会話したりと英語漬けでした。みんなフレンドリーですぐ仲良くなれて、冗談を言い合う仲間になりました。これはとても嬉しいことで、ほんとに家族の一員になれた気分でした。バスの運転手さんとも仲良くなり、いろいろな地域の事について聞くことができました。また現地のオーストラリア人とも友達になり、放課後など一緒に出かけて遊ぶことができました。こんなことは日本では想像もしていませんでした。

ほんとにたくさんの出会いがあり、いろんな人と学内でも学外でも知り合えて、ここに書ききれないほどの経験をすることができました。これは英語があったからであり、なにも英語がわからない状況では絶対に経験できませんでした。さらに英語の素晴らしさ、必要性に気づけた5週間でした。

この研修で出会ったみんなにもう一度 Thank you for all your love and support! と言いたいです。いつかまた、さらに英語をマスターして、オーストラリアにもう一度行くとホストファミリーと約束をしました。



（松浦 史晃）

思い出の1ページ



ソウル科学技術大学

●韓国 ソウル科学技術大学参加者名簿（合計2名）

日程：2015年7月26日（日）～8月7日（金） 2週間プログラム

	氏 名	学 部	学年
1	小 川 達 也	工学研究科（博士前期課程）社会基盤工学専攻	M2
2	田 中 一 江	地域科学部 地域文化学科	3



私の英語力はあまり良くないため、英語字幕を読みながら内容を理解することでいっぱいでした。他の学生達は感動したとっていました。

【テコンドー】

ソウル科技大のテコンドー部の人たちが習得している技を実演し、テコンドーの凄さを披露してくれました。その後、参加者にテコンドーの基本的な蹴り方や動きを説明し、指導してくれました。最後の30分間には実際に試合をしました。数時間の練習でも、迫力のある試合をしている人もおり、盛り上がるスポーツ体験でした。

私は体が硬いため、準備運動ですごく苦戦しました。蹴る練習では足があまり上がらず柔術の難しさが分かった体験でした。



テコンドーの練習をしている風景

【K-Pop ダンス】

ダンスの練習に取り組んでいる私たちと同じ年頃の4人の韓国学生がBIGBANGのBAN-BAN-BANという曲のダンスを披露、指導してくれました。とてもかっこいいダンスでしたが、2時間弱の時間で振付を覚えるのは困難を極めました。最終的に曲の一番のサビまで振付を覚えられたのは参加者の3割程度でした。しかし、2時間ほどダンスの練



参加者がダンスを披露している様子

習をした後に参加者でダンスを披露したときは、みんなで楽しく踊ることができました。

また、最終日の余興でこの時に習ったダンスを披露しているグループもありました。私はダンスの経験がなかったため、上手く踊れなかったと思います。しかし、上手い下手を問わず、楽しく踊れました。

【韓国伝統音楽】

韓国で有名な『アリラン』や、子供から祖父母世代まで知っている『コムセマリ』、有名なK-Popを聴いたり歌ったりする授業でした。授業後にはみんなでカラオケに行き、K-Popを踊りながら合唱したりしました。

私は、この時に知ったK-Popを、仲間たちと観光中や授業の休憩時間などに踊ったりしていました。後日、ネットで音楽をダウンロードして、よく聞く曲のひとつになりました。

(小川 達也)

【お面作り】

白いお面に自由に色を塗りました。同じ形のお面でも、学生によって全く違う物ができて、面白かったです。完成したお面をつけて、祭りなどで踊るようなリズムに合わせて、みんなで踊りました。

小川さんはピカチュウのお面を作りました。他国の人たちも知っており、日本のアニメに対する知名度の高さを感じた瞬間でした。また、この日に作ったお面は最終日の余興で活躍してくれました。



お面作りの様子

【NANTAshow】

明洞にある劇場で、まな板や包丁、鍋など、キッチンにあるものを使ったミュージカルを見ました。オーナーの無茶苦茶な注文、新人シェフの行動により大混乱の調理場、はたして料理の提供は間に合う

絡を取り合っていますが、次に会ったときには英語で話せるように英語の学習を今更ながらですが始めました。残りの学生生活の中でこのような経験をまたできるよう、積極的に何事にも取り組みたいと思います。

最後に、留学の支援をしてくださった太田先生と宮本さん、そしてSTISSの参加者とボランティアスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。

（小川 達也）



お面作成後の集合写真

短期留学（サマースクール）参加者アンケート

グリフィス大学

【アンケート回答率】 96% 回答者数：24人（参加者数25人）

1. 先方の大学での研修について

- a. 履修した授業の内容（科目、授業の概要等）とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。

Speaking 4.6点

クラスメイトとの会話練習・発表、ディスカッション、グループワーク、2分間スピーチ、ミニドラマ、プレゼンテーション、トピックについての会話

Listening 4.2点

ディクテーション、ディスカッション、授業、動画、洋楽・洋画、会話のリスニング（複数回同じものを聴いた）、リスニングテストの練習、ビデオ、CD、ニュースの聞き取り

Writing 4.3点

レポート・英作文、体験談、日記（時制に着目して）、物語・エピソード作成、記事作成、紹介文、抗議文の書き方、新聞作り、手紙
・添削が丁寧、日本人の先生とは違ったアドバイスをもらえる。

Reading 3.7点

読書、記事、短編小説、長文読解、教科書、宿題
・簡単だった。

Grammar 3.3点

文法の説明、文法を用いた会話、英文作成、過去計・未来形・現在完了形・進行形等
・知っているものばかりだった。

Pronunciation 5.0点

音読、早口言葉

Group Work 4.5点

- b. 参加したアクティビティの内容とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。

サーフィン 4.1点

フレージャー島旅行 4.0点

動物園 4.7点

ホエールウォッチ 4.7点

Q1 スカイポイント（高層ビル）見学 5.0点

カヤッキング 5点

カラビンサンクチュアリ 4.6点

Mt.Tamborine skywalk 4.7点

・オーストラリアの自然に触れることができた。

ブリスベン観光 4.0点

スポーツ体験（テニス、バレーボール、バスケットボール等） 4.3点

BBQ 2.8点

土ボタル 5.0点

・たくさんのアクティビティに参加させてもらいましたが、どれも満足できるものでした。

- c. 先方の受け入れ体制について

①生活面で世話をしてくれた人は誰ですか？

・Kylie（グリフィス大、アクティビティ担当）
・ホストファミリー（David・Karen）、
・ホストファーザー、ホストマザー、ホストファミリー（Holly・18歳）、ホストメイト（中国人Lie）

②その人はどんなことをしてくれましたか？何か問題はありましたか？

○Kylie

- ・アクティビティの申し込み、手続き、引率等
- ・アクティビティの説明・申し込み、分からないことがあった時の相談

○ホストファミリー

- ・家事（料理、洗濯、掃除等）
- ・送迎（バスの運行がなくなったとき）
- ・お弁当作り、アクティビティの準備
- ・いろいろな場所に連れて行ってくれた。
- ・ゴールドコースト観光
- ・キャンプ
- ・すべての世話をしてくれた。全く問題なし。
- ・とても親切な人だった。年が近いということもあり、また、小さい子供もいて、毎日が楽しく、日本の友達ではなくファミリーと過ごすことも多かった。たくさんの場所に連れて行ってくれた。
- ・洗濯の方法や家の決まりを教えてくれた。
- ・私が過ごしやすいように様々な配慮をしてくれた。

問題点

- ・朝食やお弁当をほとんど作ってもらえなかった。
- ・ホームステイではプライベートがあまり確保できなかった。
- ・学校までが遠く、時間とお金を使った。

③勉強面で世話をしてくれた人は誰ですか？

・GELIの教師

Manuela, Phillipa, Roz, Tom, ケイリーン, メイソン, リチャード, David

- ・ホストファーザー, ホストマザー, 現地で知り合った友人, ホストメイト（中国人）とその友人, Carla（友人のホームステイ先のマザー）

④その人はどんなことをしてくれましたか？何か問題はありましたか？

○GELIの教師

- ・授業（明るく楽しい授業をしてくれた。勉強

方法のアドバイスをくれた。毎日楽しく考えさせる授業をして、英語力上達のきっかけを作ってくれた。）

- ・学生とコミュニケーションが取れるようによく話しかけてくれたり、学生同士で競い合えるように英語で遊びをしたりと、楽しい授業になるよう指導してくれた。
- ・課題やテストの相談、人と会話するときのアドバイス
- ・英作文の添削、英語学習のアドバイス
- ・細かいミスまで指摘していただきました。日常ではどのような単語を使用するか教えてもらった。
- ・すべての先生が困っていたら助けてくれるし、シュチエーションごとの使うべき英語等も教えてくれて身になった。
- ・英語の質の向上（スピーキング、リーディング、ライティング）。ゆっくり話してくれ、何でも質問できた。
- ・僕ら学生の英語力の向上を第一に授業をしてくれた。

○ホストファーザー

- ・発音を直してくれた。勉強のアドバイスをくれた。
- ・同じ意味の単語でも場面に応じた使い分けを教えてもらった。

○ホストメイト, その友人, 地元の人々

- ・英語でのナチュラルな会話を教えてくれた。
- ・会話の練習
- ・毎朝会話をしてくれた。
- ・特に問題なし
- ・最初、うまく話せない英語を一生懸命聞きとってくれた。中国と日本で英語の発音が違う点が多く最初は少し戸惑った。違う国の人とショッピングに行くことで良い経験ができたと思う。
- ・国籍に関係なく仲良くしてくれた。

⑤その他に頼りになる人、世話をしてくれる人はいましたか？

- ・GELI 4階の事務の日本人, ホストファミリー (Brian Low 兄, 娘), ホストメイト (中国人留学生), Andy (ホストメイト (中国人)),

- 友人（中国人）
- ・クラスメイト，近所の人
- ・Kylie（グリフィス大職員，アクティビティ担当）
- ・サミー（グリフィス大の Agency）

⑥その人はどんなことをしてくれましたか？

何か問題はありましたか？

- GELI 4 階の事務の日本人
 - ・大切な内容や相談は，日本語で説明してくれ，「何かあったら来て」と言ってくれて親切だった。
 - ・ホームステイ先のことについて話を聞いてくれた。
- ホストファミリー
 - ・留学先到着時に，家の周辺を案内してくれた。一緒に買い物に行った。
- ホストメイト・友人
 - ・携帯電話やゴールドコーストでのおすすめポイントを紹介してくれた。
 - ・駅から家までの送迎
 - ・バス停が同じで仲良くなった。ある日サウスポートから帰ろうとしたとき少し迷ってしまい，一緒に家まで帰ってくれた。
 - ・国籍に関係なく仲良くしてくれた。
 - ・オーストラリアについて話をしてくれた。
 - ・アクティビティやその他のチケットを取ってくれた。
 - ・バスの乗り方や大学の過ごし方を教えてくれたり，携帯電話を買いに連れていってくれたり，数えきれないくらいお世話になった。
 - ・交通機関の説明
 - ・分からないことを色々調べてくれた。
 - ・色々なイベント等に連れて行ってもらった。一緒に遊んだ。
 - ・グリフィス大学，Gold Coast について色々教えてくれた。毎朝一緒に学校に行くので良い話し相手になったくれ，不安が和らいだ。

d. 留学期間について（長いまたは短いと答えた人は何週間が適当か記入してください）

適当：13人

長い：1人（3週間1人）

短い：10人（6週間1人，7週間1人，8週間1人，10週間2人，12週間3人，15週間2人）

e. その他授業について困ったこと，先方に対する要望等自由に記入してください。

- ・半分以上が日本人だったので，もっと外国の人がいればよかった。
- ・先生の当たりはずれがあること。
- ・大学からホームステイ先まで乗り換えなど遠かったため，もう少し近場から通学したかった。
- ・同じクラスでも英語がナチュラルに話せる人が少なく，それぞれの発音の違い（中国人や韓国人，アラブ人など）が英語にも出ており，正しい英語を学ぶ機会が，授業では先生との会話以外にあまりなかった。

2. ホームステイについて

部屋の広さ：1部屋

10㎡未満	4人
10㎡～20㎡未満	7人
20㎡～40㎡未満	3人
40㎡以上	1人
無記入	9人

a. 部屋にあった設備を記入してください。

ベッド，机，椅子，ランプ，クローゼット，タンス，バスルーム，ソファー，冷蔵庫，ポット，延長ケーブル，テレビ，トイレ，ライト，Wi-Fi，プラスチックケース，鏡，ドレッサー，コンセント，ファン，棚，扇風機，インターネット

b. 食事はどうしていましたか？

- ・ホストファーザーが作ってくれた。
- ・朝は自由にシリアルを食べていた。
- ・昼はサンドウィッチやお菓子，果物，毎回ペットボトルの水があった。夜は家族みんなでマザーの手料理を食べた。

- ・基本的には家で食べていた。
 - ・昼は弁当，朝・夕は家で食べていた。
 - ・好きな時間に自分でよそって食べていた。
 - ・お昼の弁当は自分で作っていた。
 - ・夜ご飯は毎回作ってもらえたが，夜ご飯の時間が早いので，学校が終わってから繁華街へ遊びに行くと，夜ご飯の時間には家に着けない。
 - ・土日出かけた時は外食。
 - ・朝は自分で，昼はお弁当，夜は作ってもらっていた。
 - ・朝昼晩マザーが用意してくれた。外食する時は，そのことを伝えて自分のお金で食事をした。
- c. ホームステイ先での日常生活に関して困ったことがあれば記入してください。
- ・洗濯の回数が少ない。
 - ・洗濯が週末だけだったので困ることがあった。
 - ・Wi-Fiがなかったこと。
 - ・何日かお湯が出なくてシャワーが使えなかった。
 - ・学校までバスで通っていたが，土日の終バスが早く土日に遊びに行くと，帰りのバスに乗れなくて歩いて帰ることがよくあった。
 - ・交通の便が非常に悪かった。
 - ・学校からホームステイ先が遠く，バスを乗り換えていかなければいけない。また，そのバスは毎日夜6時にはなくなり，1時間に1本しかないため少し不便だった。自分の部屋にドアが付いておらず，玄関と一体の，部屋とは言えない場所だったので寒かった。
 - ・（贅沢を言えば）常にイタリア料理だったこと。
 - ・いつ洗濯をしてくれるのか分からなかった。
 - ・自分の部屋は，倉庫のような所とつながっており，部屋の電気をつけると倉庫の明かりもつく仕組みになっていた。夜の明かりは，机のスタンドだけを使うようマザーに言われていたので，スタンドだけで我慢をしたが少し暗かった。
 - ・ホストファミリーが，とても時間にルーズなこと。
- ・ドライヤーの使用時間に少し迷った。
 - ・自分の部屋の照明がとても暗かった。部屋での自習に影響が出た。
- d. ホームステイについて良かったこと・悪かったこと，要望など記入してください。
- 良かったこと
- ・ホストペアレンツがとても親切にしてくれた。
 - ・アジア系の家族だったので，ご飯が自分の口に合っているとおいしかった。自分は最初あまり英語が話せなかったけれど，ホストファミリーの方からたくさん話かけてくれた。
 - ・異なる文化に触れることで，思想や行動に興味を持てた。
 - ・さまざまな経験ができてよかった。
 - ・ファーザー，マザーが優しかったこと。
 - ・夜ご飯がおいしかった。風呂の時間も自由で毎日洗濯をしてくれた。
 - ・比較的自分の意見を尊重して頂いたので，自分の好きなように時間を使えたので良かった。
 - ・日本とは違う文化の家庭料理を食べることができて良かった。
 - ・家族がオーストラリア人だったので現地の英語を毎日聞けたり，教えてもらった。また，ホストファミリーに自分と同じ世代の子が2人いたので，現地の同世代の人の考え方や生活習慣，英語の使い方などが分かって良かった。
 - ・バスの運行がなくなったときの送り迎え。
 - ・シャワーについての決まりが厳しくなかった。
 - ・とにかく，ホームステイ先は家族のように居心地がよかった。山，大きなショッピングセンター，パイロンベイ，ホワイトハウス，マーケット，土ボタル・・・いろいろな所に連れて行ってもらえ，たくさんの人に会うことができた。毎日6時までにはできるだけ帰るようにして，それから一緒にご飯を作るのがとても楽しく，会話の練習になった。ご飯を食べた後は，おしゃべりをするか，DVDをみんなで見るかで，他の参加者と違い，私は自分の部屋にいる時間がとても少なかった（寝

る時ぐらい)。5歳の男の子がいたから、庭でバスケ、テニス、サッカー、鬼ごっこ、フリスビーなども楽しめた。会話中にわからない単語がでてきたら、マザーが説明してくれ、辞書がなくても聞き取ることができた。

- ・オーストラリア人と交流できたこと。
- ・ホームステイ先の家が学校から、徒歩40分の距離にあり、歩いて通えたことは良かった。ホストファミリーと食事中にその日の出来事などの話ができただけでも良かった。
- ・マザーはとても優しく、生活のあらゆる面でお世話になった。また、犬や他のホームステイの人がいて、遊んだりしたのでそれも良かった。
- ・子供達がいたのでたくさん遊べた。
- ・ホームステイ先の方は、みんな親切で優しくかった。

○悪かったこと

- ・意志の疎通がたまにできない。
- ・夕ご飯が毎日カレーだった。
- ・お米が食べられてよかったが、夕食は同じ食材で味付けを変えたものが多かった。
- ・洗濯をして頂く際、毎度白い汚れがついて返ってきたので残念だった。
- ・ホームステイ先によって質の差が生じること（交通費、食事の偏り、通学バスの利便性など）。
- ・ハンガリー語を話していたので、よく分からなかった。
- ・交通の便が悪かった。
- ・同じ家にホームステイをしている学生5人のうち3人が中国人で、家の中での会話が中国語が使われることが多かった。
- ・ベジタリアンの家庭なので、肉があまり食べられなかった。それ以外は、すべて良かった。たまにビーチや公園に連れて行ってくれた。携帯電話の手続きもすべてしてくれた。バスのGo-Cardについても。

3. 生活全般について、トラブルがあればその対応も記入してください。

トラブル：携帯電話を外でどうやって繋ぐかわからなかった。

相談相手：ホストファーザー

対 応：携帯ショップに連れていってくれ、難しい手続きを代わりにやってくれた。

トラブル：お湯が出ず、シャワーが3日間使えなかった。

相談相手：ホストファーザー

対 応：直してもらった。

トラブル：ホームステイ先の都合で、引っ越すことになった。

相談相手：グリフィス大学の日本人の先生

対 応：次のホームステイ先について、日本語で詳しく説明してくれた。

トラブル：携帯電話に関して。

相談相手：ホストファミリー・店のスタッフ

対 応：返品した。

トラブル：携帯電話をなくした。

相談相手：シンガポール空港

対 応：見つからなかった。

トラブル：1日だけマザーと音信不通になった。

相談相手：友人

対 応：友人宅でディナーを取った。

4. 所要経費について（平均）

・支出総額 779,091 円

内訳

参加費 610,000 円（航空費・宿舎費含む）

食 費 27,647 円

保険料 14,588 円

その他 136,364 円

・参加費について

高い：9人 適当：8人 安い：1人

無記入：6人

5. 出発までの学内の諸手続き、出発前の事前研修について気が付いたこと、要望があれば記入してください。

(学内の諸手続きについて)

- ・ 保険の手続きを学校側がしてくれたのが良かった。
- ・ 主要なことが、大学のメールに送られるので、気付くのに時間がかかった。
- ・ 留学生支援係と生協に書類を出せば、ほとんどの手続きをやっていただけだったので楽だった。
- ・ 問題ありませんでした。
- ・ 簡素でとても良い。
- ・ もう少し皆が分かるように大きく宣伝しても良いと思う。
- ・ 適当
- ・ 書類の提出を様々な場所でしなければならないのは面倒であった。
- ・ ほほすべての手続きを生協の方がやってくさったのでとても楽に感じた。学生の負担が少ないのがサマースクールの1つの利点だと思う。
- ・ 主に留学生支援係の宮本さんが手続きや情報伝達をしてくださったため、スムーズに学内の諸手続きを行うことができた。
- ・ 少し遅かった（航空券、ホームステイ先の情報等）。

(出発前の事前研修について)

- ・ オーストラリアの習慣などを教えてくれたのが良かった。
- ・ 遅い時間だったので参加しにくかった。
- ・ 注意事項などが分かった。
- ・ 英語に触れる機会が増えたことにより、グリフィス大学に行った時、さほど抵抗なく授業に参加できた。
- ・ 今のままで十分だと感じました。
- ・ 英語を海外で話す上で少し役に立った。
- ・ 個人のレベルに合わせて、自由参加なのは良いと思う。前年の参加者の話を聴く機会はとても貴重だったと思う。
- ・ 不必要
- ・ あらかじめ一緒に行く人達と会えることは良かった。（出席を）強制すべき（初回、1回

は出席するとか）。

- ・ 英語を使える良い場所だと思った。海外に行く恐怖心が和らいだ。ただ授業内容は簡単すぎて、全体のレベルもかなり低い。自習をしていた方が英語力を高めるという点では良いと思った。英語をまじめに学んでいて、語学力の増強を真剣に考えて、このサマースクールに応募した学生にとっては、とてももの足りなかったと思う。内容も毎回オーストラリアの食べ物、場所、遊びといったテーマを繰り返していて、後半のクラスでは飽きてしまった。オーストラリアの知識を得る点では良いと思う。
- ・ 諸事情により忙しい時期と被ってしまったため、1度しか参加していないので参加する意味については言及できない。
- ・ あったら良いと思う。事前に留学する人と友達になれたし、オーストラリアなどについて知ることができて良かった。時間が少し長い。
- ・ 参加者が少なく寂しかったが、楽しく学べて良かった。
- ・ 英語のフレーズを、日本人に教えてもらった方が良い。
- ・ 講師を担ってくれた先輩や留学生の方が、優しく楽しい英語を教えてくれた。また、英語だけでなく、オーストラリアでの生活についても学べて、留学中に活用することができた。

6. 短期留学に参加した感想を自由に書いてください。

- ・ いろいろあったけれど、本当に楽しくて、新しいことを多く知ることができた。本当に行って良かったと思う。もう少し英語を学べるように積極的にできたら良かったと思う。
- ・ この短期留学には、英語の勉強のために参加しました。少し期間が短かったのでちょっとしか英語は上達しませんでした。スピーキングは前よりも良くなっていると思います。それ以上にこの短期留学で、今までやったことがなかった体験やグリフィス大学で出会った様々な国籍の人々からもっと大切なものを学べた気がしました。この体験をこれからの生活に活かしていきたいです。
- ・ 様々な経験ができて、自分の将来のために

なった。

- ・多くを経験できた。人生経験を積むことができたので、今後のためになって良かった。
- ・私は留学をしたい気持ちはあったが、英語力がないため不安な気持ちもあった。しかし実際にオーストラリアに行くことと楽しく、外国の友達、先生、家族と話す機会が非常に多くあったため、スピーキングとリスニングのスキルも上がった。来年も留学に行きたいと思える素晴らしいプランだった。
- ・留学先では、いろいろな人と出会い大変お世話になった。日本でできないような経験がたくさんできた。
- ・参加する前は、英語を義務的に学習していたが、参加後は英語に対する考えが変わった。長期で留学に行きたくなった。
- ・今まで以上に英語、海外への関心を高めることができたので良かったです。また、留学への敷居を低くすることができたので参加して良かったと思います。
- ・日本にただけでは得られなかっただろう広い視野がもてるようになった。
- ・短期なので、語学力の向上はほとんどの人が体感できなかっただろうと思う。学校に通うが、クラスにはアジア人がほとんどで、英語の勉強にはつながりにくい。また、授業後も中国人は中国人同士など各国同士で皆遊んでいたため、英語を使う機会は、自ら現地でオーストラリア人などの友達を作るなどしないと難しい。自分はホストファミリーとよく会話したり、現地の自分の趣味のお店で友達ができ、その人にとっても良くしてもらったので、英語の勉強にもなったし、いい経験もできた。
- ・とても良かった。日本で夏休みを過ごしていたら、特に何もしていなかったと思う。留学によって自分の英語力、文化、自然の違い等が分かり将来の自分にとって身になったと思う。今後の目標設定にもつながった。大切な友人もできた。そして何よりも充実した日々を過ごせて幸せだった。
- ・留学に参加して、より英語を勉強しようという思いが強くなった。そして来年も行きたいです。
- ・自分の視野が広がり良い刺激をもらうことが

できた。

- ・価値ある時間を過ごせたと思う。機会を与えてもらえて感謝している。
- ・初めて留学を経験して、すべてが新しく感じて、自分にとってとても良い刺激になった。今後の英語学習のモチベーションアップにつながった。
- ・良かった面ばかりで悪い面はないです。
- ・日本との文化の違いを感じさせられた。オーストラリアの店は18時まで閉店していることが多く、日本と比べて不便だと感じました。しかし、家族で過ごす時間を大切にするためだと感じ、素晴らしい文化だと思いました。その中で1か月程度生活できたことは良い経験になったと思います。
- ・海外の文化に直接触れることができ、良い経験になった。
- ・自分がそんなに変わるとは思っていなかったが、積極的になった気がする。短期留学では、英語力はそんなに伸びなかった。友達ができることがとてもうれしい。
- ・参加して良かった。本当に幸せな夏休みだった。また留学したい。
- ・自分の人生に役立つものがたくさん得られた。
- ・後に残るものがたくさん得られた。
- ・自分にとって、留学先でのすべてが新鮮な経験だった。是非、学んだことや感じたことをこれからの将来に役立てていきたい
- ・参加して本当に良かった。いろいろな人々と関わって、いろいろな景色を見て物事の考え方が広がったと思う。
- ・毎日が充実した1か月だった。生活も買い物も学校もすべて英語なので、とても英語が好きになるし、上達したと思った。他国の友達もできて貴重な体験をすることができた。

7. 来年の参加者にアドバイスがあれば記入してください。

- ・恥ずかしがらずに積極的にコミュニケーションをとる。英語を話す環境を自分で作り、英語に多く触れるように意識すると良いと思った。
- ・休日や放課後は家にこもらず様々な場所に

- 行ってほしい。アクティビティに積極的に参加した方が良い。とにかくいろいろな人とたくさん会話する。
- ・モバイルフォンは必要。
 - ・私のように英語力に不安があり行くことにためらいのある人は、そのようなことは考えなくてよい。なぜなら、留学先で英語力は上がるからだ。どのような英単語で伝えれば良いか分からない時、別の単語や文で伝えるために頭で考える。これが英語の上達につながる。行きたいと思ったら行くべきだ。
 - ・朝夕は寒く、昼間は暖かかった。体調管理には気を付けた方が良い。
 - ・出発前の準備費用が想像以上にかさむので注意してください。
 - ・自分から一歩前に踏み出すこと。
 - ・短期間なので学校に行けば、ホームステイすれば、など受動的な気持ちで行っても何も得るものはない、ただの旅行になると思う。いろいろなことに自ら行動して、現地の人に話しかけたり、積極的にならないとこのチャンスを無駄にすると思う。しかし、各ホームステイ先によりお金の消費量がとても変わるので、お金の使い方には気を付けた方が良い。
 - ・迷っている人がいるなら、ぜひ行ってみたいと思う。今の自分に足りないものが分かる。そして何よりも楽しい。自分は大学院に行ってから、1年留学をしたいという気持ちになりました。
 - ・携帯、財布などなくした場合は、ほとんどかえってこないのので気を付けて！
 - ・朝と夜の家の中はとても寒いので、ダウンが必要です。お礼用のかわいい紙、レターセット等を持っていくと良いと思う。
 - ・ガツガツ食欲になるべきです！
 - ・服は多めに持っていくほうが良い。英語は事前に勉強をして、留学の間はその知識を試す場、特にアウトプットを高める場だと意識して欲しい。留学では英語力は上がらない、自分次第。
 - ・英語をがんばろう。
 - ・海外での生活を経験できる機会であり、手続きなど大変なことは大学側が受け持ってくれます。良い機会だと思うので参加してみると

良いと思います。

- ・季節に合わせた服やその枚数。
- ・現地で携帯電話は買わなくても良い。ポケット Wi-Fi で良いと思う。
- ・とにかく楽しんできてほしい。
- ・洗濯の回数が少ない家庭もあるので、ファブリーズなどを持って行った方が良い。8月のオーストラリアは、冬なのでコートやジャケットは必須。
- ・できる限り1人で行動をした方が良い。
- ・とにかく、自分から挑戦することが大切。留学の満足度は自分次第だと思うので、是非、自分から積極的に動いて行って欲しい。
- ・英語に自信がなくても、笑顔と感謝の気持ちを大切にすれば留学できる！

8. お礼の手紙について

出した人 16人（誰に:ホストファミリー、ルームメイト、大学の先生、大学の友達、クラスメイト）

出していない人 7人

無記入 1人

- ・ホストペアレンツとホストメイト（中国人）には、お礼をポストカードに書いて最終日に渡した。
- ・手紙は出していませんが、帰った後にホストファミリーとLINEで何回か連絡を取り合っている。
- ・まだ、出していないがこれから出す予定。

ソウル科学技術大学

【アンケート回収率】100% 回収数：2人／（参加者2人）

1. 先方の大学での研修について

a. 履修した授業の内容（科目、授業の概要等）とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。

- ・韓国語講義（ハングル、簡単な単語と会話、歌など。説明は全て英語。）：4点

b. 参加したアクティビティの内容とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。

- ・韓国映画鑑賞：4.5点
- ・韓国音楽：4.5点
- ・韓国お面作り：4点
- ・レールバイク体験：4点
- ・K-pop ダンス：4.5点
- ・韓国伝統武術（テコンドー）：4点
- ・韓国伝統打楽器：4点
- ・『ナンタ』観劇：5点

c. 先方の受け入れ体制について

①生活面で世話をしてくれた人は誰ですか？どんなことをしてくれましたか？

ボランティアスタッフ（ソウル科技大の学生）：食事や観光などの企画、空港までの迎え、寮までの案内をしてくれた。また、外食に連れて行ってもらった。寮に案内してくれる時に、ゴミ置き場の場所を教えてほしかった。

②勉強面で世話をしてくれた人は誰ですか？どんなことをしてくれましたか？

パク・ヨンミ先生、チョ・スヒョン先生、アン・ユジン先生、ハン・ジュギョン先生、チョン・シホン先生：韓国語の授業と Korean Music, Korean movie の担当を担当してくれた。元気な先生だった。

③その他で頼りになる人、世話をしてくれる人はいましたか？どんなことをしてくれましたか？

馬淵さん（ソウル科技大に留学していた岐大

生）、去年岐阜大学に留学していた学生：外食に連れて行ってくれた。

d. 留学期間について

- 短い 0人
- 適当 2人
- 長い 0人

e. その他授業について困ったこと、先方に対する要望等自由に記入してください。

（困ったこと）

- ・韓国語を学習したことがある人とない人が同じクラスに配属されること。

2. 寮について

a. 部屋にあった設備を記入してください。

1部屋は約15㎡で、机、イス、ベッド、洗面台、トイレ、シャワー、クローゼット、下駄箱、ほうき、ちりとり、エアコンの設備があった（接続がうまくいかない日もあったが）Wi-Fiも使用可能であった。

b. 食事はどうしていましたか？

- ・寮生が無料で利用できる食堂（朝、昼、晩、それぞれ1、2時間程度営業）または外食

c. 寮での日常生活に関して困ったことがあれば記入してください。

- ・入居初日に、ゴミ捨て場がどこにあるかが分からなかった。

d. 寮について良かったこと・悪かったこと、要望など記入してください。

- ・生活するための十分な設備が備わっており、洗濯機、乾燥機も1階に複数設置されていた。
- ・部屋はきれいで使いやすかった。

3. 生活全般について、トラブルがあればその対応も記入してください。

トラブル：課外活動の時間変更に関する情報を受け取れず、集合時間を間違えた。

相談相手： -

対応：ボランティアスタッフが、集合時間を過ぎる前に部屋まで迎えに来てく

れた。

失くさないと思う。

4. 所要経費について（平均）

- ・支出総額 84,000 円
- 内訳
 - 参加費 43,000 円（航空費・宿舎費含む）
 - 食費 11,000 円
 - 保険料 5,600 円
 - その他 24,400 円
- ・参加費について
- 高い：0名 適当：1名 安い：1名

8. お礼の手紙について

- 出した：0人
- 出していない：2人

5. 出発までの学内の諸手続き、出発前の事前研修について気が付いたこと、要望があれば記入してください。

（学内の諸手続きについて）

- ・主に留学生支援係の宮本さんが手続や情報伝達をしてくださったため、スムーズに学内の諸手続きを行うことができた。

（出発前の事前研修について）

- ・もう少し早めの方が良いと思った。

6. 短期留学に参加した感想を自由に書いてください。

- ・韓国で生活したこと、語学学習、文化体験、参加者や現地スタッフと交流したことなどから多くのことを学び、とても充実した日々を過ごせたと思います。
- ・授業で韓国語を勉強していたが、ネイティブの人たちと話すのは今回が初めてであった。実際に話して見ると、聞き取ることはできても分からない単語が多く、大変だったが、貴重な体験をすることができた。韓国語の勉強を続けていきたいと思う。

7. 来年の参加者にアドバイスがあれば記入してください。

- ・韓国に興味がなくとも、良い経験ができ、留学に掛かる費用は他の留学に比べ少ないので、ぜひ参加してみると良いと思います。
- ・寮の洗濯機は、洗い終わると次に使う人が中の洗濯物を取り出して置いてくれていたので、洗濯ネットに入れて洗った方が洗濯物を

編集後記

留学生センター担当のサマースクール（派遣）は、オーストラリアのグリフィス大学、韓国のソウル科学技術大学の2校で実施し、27名の学生を派遣した。

本年度の「留学フェア」（4月15日）の参加者は38人であった。時期が早かった上、他のイベントと重なったためか、前年の100人には遠く及ばなかった。私自身は、上記2校のサマースクールについてPPIを使いながら説明し、個別の質疑・相談等に対応、さらに4月22日（22人参加）、5月13日（17人参加）の両日に、グリフィス大学のみ説明会を実施した。昨年度より5月中旬にも説明会を行うようになったのだが、連休明けの落ち着いた頃に再度宣伝することができたのは効果的だったと感じている。JASSOの奨学金が獲得できなかったにもかかわらず、最終的に25名（うち23名が工学部）という最多の応募があり、この時点では関係者一同大喜びであった。

木浦大学からも久しぶりに通知があり応募を始めたのだが、韓国でMERS（中東呼吸器症候群）が発生したため、開催自体が見送りとなった。ソウル科学技術大学は定員が3名だったためAIMSのみで募集をしたが、開催時期が学期中だったこともあり2名の参加にとどまった。MERSがなかなか収束しなかったため、ソウル科技大にも何度か問合せ、学生とも話し合いながらの決定となった。

参加決定後、6月16日～7月17日までの5週間、週3回（火曜日、木曜日、金曜日、1回2時間）計15回にわたって英語研修を実施した。講師はソヨン・ユンさん（シドニー工科大学からの交換留学生）、ヘレン・ウー・ラックさん（シドニー工科大学からの交換留学生）、パルムロース・ティム君（地域科学部研究生、日本語・日本文化研修コース修了後、ルンド大学卒業）、ボーン・カーシー・クリスティンさん（ノーザンケンタッキー大学からの交換留学生）、岩本理恵さん（教育学部4年、ノーザンケンタッキー大学へ留学）の5名であった。私自身は興味深く役に立つ内容だと思いながら研修を参観したのだが、全般的に出席者が少なかった。講師をしてくれる留学生の人材不足の問題もあり、次年度以降も英語研修を続けていくかどうかが課題として残っている。

7月15日には講師（海外留学生安全対策協議会服部誠氏）を招いて全参加者を対象に「危機管理オリエンテーション」を実施した。終了後、ソウル科技大・グリフィス大の参加者それぞれに対して、生協、事務、派遣担当教員からの諸連絡・アドバイス等の他、前年度の参加者からも全般にわたるアドバイスがあり、出発に備えることができた。

各大学でのサマースクールの様子は本報告書を読んでいただきたいが、今年度のグリフィスサマスクールのリーダーからは、到着時、一週間後と報告が届き、その頻度で報告があるのかと期待したのだが、それ以降はなく、欠席者の問題でグリフィス大学からメールがあったため、こちらから何度か連絡する結果となった。ソウル科技大のリーダーからも簡単な連絡が2度入った。しかし、両校の参加者とも帰国後全く顔を見せなかったため、前年度の参加者に愚痴ったこともあった。そのためか、グリフィス大参加者数人が何の連絡もなしに突然昼休みにやってきたことがあったが時間を割けず、空いている日を伝えて集まってもらった。両校の参加者と面談できたのは帰国から2カ月後位であった。

本年度の留学報告会「私たちの留学の“真実”」は工学部からの留学生3人も参加して12月16日（水）に実施し、2校の代表者が報告をしてくれた。しかし、グリフィス大の発表者1名のPPIは映らない、発表者同士の連携が取れていない、ようやく決まった受付はその任が全うできない、ソウル科技大の発表者1名はドタキャン、等々いつにない問題が多数発生し驚きを禁じ得なかった。グリフィス大参加者はサマースクールの思い出を模造紙2枚にまとめてくれたのだが、それも報告会開始直前ギリギリまで書き込みをしているような状況だった。参加者に個別に質問すると、一応に貴重な体験だった、今後の歩みにとって良い刺激を受けた、などプラスの評価が返ってくるのだが、サマスクから得た熱い思いを最後まで感じ取ることができなかった。

英語研修やグリフィス大での出席率の悪さ、留学報告会で垣間見た疑義等につき、この報告書作成過程でも類似の姿勢が窺え、例年ない課題を感じるサマスク（派遣）となった。関係者と共にこのような実態を直視し、参加人数や参加者の選考方法を考え、次年度に備えなければと思っている。

しかし、留学支援室の宮本亜由子氏、生協の佐々木英之氏、留学生センターの粥川美重子氏、英語研修の講師を引き受けてくれた5名の学生たち、説明会や交流会に参加してくれた前年度の参加学生たち、等々大勢の協力により今年度のサマースクールを実施することができた。各位には改めて感謝の意を表したい。

（留学生センター 太田孝子）

岐阜大学夏期短期留学

サマースクール2015報告書

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1
発行年月日 2015年12月
発行者 岐阜大学
電 話 058-293-3392
F A X 058-293-3491
印 刷 西濃印刷株式会社